

Focusrite®

ISA C8X



ISA C8X ユーザーガイド
Version 1.0

目次

ISA C8X 概要	4
ISA C8X の概要	4
同梱品	5
System Requirements	5
ISA C8X の使用を開始する	6
ISA の電源を投入	6
ゴム足を取り付ける	6
ISA C8X 各部の名称と特徴	7
ISA C8X フロントパネル	7
ISA C8X リアパネル	9
フロント・パネルの各機能	10
入力セクション	10
出力セクション	24
リアパネルの各機能	32
USB 接続	32
S/PDIF 入出力	32
ワードクロック入出力	32
オプティカル接続	32
MIDI	33
入力	33
ライン出力	35
使用例	37
入力の接続例	37
ISA C8X でボーカルを録音する	38
ISA C8X で多チャンネル録音を行う	39
出力の接続例	42
ステレオモニターをセットアップする	42
サラウンドモニターをセットアップする	42
イマーシブモニターをセットアップする	44
Focusrite Control 2 をで使用する	46
Focusrite Control 2 のミキサー・タブを使用する	46
ミックス	48
ミキサーチャンネルを使用する	50
Focusrite Control 2 のルーティング・タブを使用する	53
ループバック	53
Focusrite Control 2 で出力をモノラルに変更する	54
プリセットの使用 Focusrite Control 2	55
プリセットの保存	55
プリセットの読み込み	57
プリセット名の変更	57
プリセットのエクスポートとインポート	58
Focusrite Control 2 初期設定	61
Sample rate & clocking タブ	61
デバイス・タブ	62
アプリケーション・タブ	64
リモートデバイス - Focusrite Control 2 モバイル・アプリのインストール	65
製品仕様	66
性能仕様	66
重量および寸法	67
付録	68
プリアンプの入カインピーダンス	68
切り替え可能なインピーダンスの詳細	68
その他の情報	70

トラブルシューティング	70
著作権および法定通知	70
ISA C8X クレジット	70

ISA C8X 概要

ISA C8X のユーザーガイドによるこそ。

ISA C8X の概要



ISA C8X は、優れたディテールとクリアさを誇る ISA サウンドに加え、充実したリモートコントロール機能、スタジオクオリティのアナログ / デジタル入出力、柔軟なルーティング、リコール機能を備え、システム全体を効率的に運用できます。2 基の Lundahl トランス搭載 ISA プリアンプには、サチュレーション調整機能やパワフルなローエンドを実現するフルアナログ回路による Console モードと、ハイエンドを持ち上げる 430 Air モードを搭載。インピーダンス切り替え、バランスインサート、ハイパスフィルターなども含め、すべての機能は本体および Focusrite Control 2 ソフトウェアから操作できます。

- 2U サイズ、26 イン/28 アウト・オーディオ・インターフェース**
 26 イン/28 アウトのアナログ / デジタル入出力を備え、あらゆるセッションの録音、ルーティング、ミックスに柔軟に対応。
- 2 基のリモートコントロール対応 ISA プリアンプ**
 Lundahl LL1538 トランスが、入力信号にナチュラルな暖かさと厚みを追加。バランス・インサート、ステップ / ファイン対応ゲイン調整、インピーダンス切り替え、ハイパス・フィルター、最大 79dB のゲインなどの機能も備えます。
- ボタン 1 つで追加できる豊かなアナログトーン**
 2 基の ISA プリアンプはリレー回路を備え、サチュレーションを柔軟に付与できる Console モードと、ハイエンドを持ち上げクリアなサウンドが得られる 430 Air モードを切り替えて使用できます。
- リモートコントロール可能な 6 基の超低ノイズ・マイクプリアンプ**
 2 基の ISA プリアンプに加え、リモートコントロール対応の超低ノイズ Focusrite マイクプリアンプを 6 基搭載。最大 69dB のクリアで高解像度なゲインやアナログ回路による Air モード、可変型 Drive DSP により、演奏のあらゆるニュアンスを忠実に捉えます。
- フロントパネルの 2 つの楽器入力**
 いずれも Lundahl トランスによってコンソールの様な質感を実現し、インピーダンス切り替えによりギターやベースなど楽器が持つ本来の音色を引き立てます。Console および 430 Air モードによるアナログ・キャラクターを加えることも可能です。
- 8 つの固定ゲイン・バランスライン専用入力**
 パッチベイとしての用途や常設運用時に便利な専用のライン入力を搭載。アウトボード機器を接続したままで運用でき、再パッチングの手間を省くことができます。

- 入力レベルを自動調整**
 オートゲイン機能を使えば、8つのプリアンプの入力ゲインを瞬時に自動調整できます。フロントパネルからボタン1つで実行できるほか、デスクトップ版またはモバイル・アプリ版 Focusrite Control 2 から利用できます。
- フラッグシップの AD/DA コンバージョン**
 Focusrite RedNet シリーズと同等の 24 ビット/192 kHz AD/DA コンバーターを搭載し、ダイナミックレンジ 125dB、THD 0.00022%を実現。レコーディングからミックスまで、最高品質の音質を提供します。
- バランスライン出力 x 12**
 モノラル、ステレオから最大 7.1.4 チャンネルまでのチャンネル・フォーマットに対応。3つのモニターグループをフロントパネルまたはソフトウェアスイッチで切り替えられます。プロ仕様の最大出力レベル + 24dBu に対応し、125dB のダイナミックレンジ (A 特性) で入力信号に合わせて適切なレベル設定が可能。出力 1/2 は XLR および TRS のいずれのプラグにも対応します。
- 独立 2 系統のヘッドフォン出力**
 独立したレベルコントロール、広大なヘッドルーム、インピーダンス最適化機能を備え、パワフルかつ高解像度なモニタリングを実現。
- ADAT、S/PDIF、MIDI、ワードクロック**
 ADAT 対応機器を接続することで 16 チャンネルのデジタル入力を拡張でき、最大 24 チャンネルの同時レコーディングを実現。S/PDIF、MIDI、ワードクロックの接続にも対応します。
- Focusrite Control 2 ソフトウェアおよびモバイルアプリ**
 Focusrite Control 2 を使うことで、本体と離れた場所からミックスやルーティングを簡単に管理・保存・呼び出しできます。複数台のインターフェースの一元管理および低遅延モニタリングも可能です。

同梱品

- Focusrite ISA C8X
- USB-C to USB-C ケーブル
- USB-A (オス) -C (メス) アダプター
- IEC コネクタ付属 AC 電源ケーブル
- 差し込み式シリコン製ゴム足 x 4

System Requirements

The easiest way to check your computer's operating system (OS) is compatible with your device is to use our Help Centre's compatibility articles:

[Focusrite Help Centre: Compatibility](#)

As new OS versions become available, you can check for further compatibility information by searching our Help Centre at support.focusrite.com.

ISA C8X の使用を開始する

ISA の電源を投入

電源アダプターを使用して C8X の電源を投入するには：

1. C8X の電源ソケットに電源アダプターを接続します。
2. コンピュータと C8X を USB ケーブルで接続します。
3. 電源スイッチをオンに切り替えます。

電源が投入され、Scarlett が使用可能になります。



注意

スピーカーの電源は、必ず最後に投入してください。

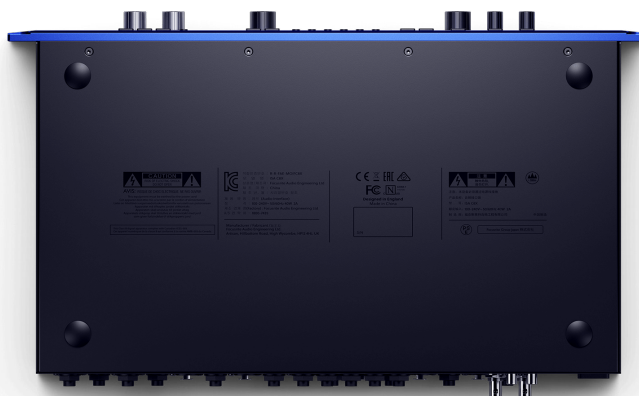
ISA のスピーカー出力には、インターフェースの電源投入時のポップ・ノイズ発生を防止するアンチサンプ技術が搭載されています。事故を確実に防ぐために、レコーディングに使用する他のすべての機器を起動してから最後にスピーカーの電源をオンにする習慣を身につけることをお勧めします。

スピーカーの電源を最後にオンしなかった場合、大音量のポップ・ノイズが発生する恐れがあり、スピーカーの損傷に繋がるだけでなく、最悪の場合聴覚に深刻な障害を引き起こす可能性があります。

ゴム足を取り付ける

ISA C8X には、押し込み式のシリコン製ゴム足が 4 個付属しています。ISA C8X を据え置きで使用する場合は、机や本体に傷が付くのを防ぐため、ゴム足を取り付けてからご使用ください。

ゴム足は、ISA C8X の底面四隅の穴にそれぞれ取り付けます。

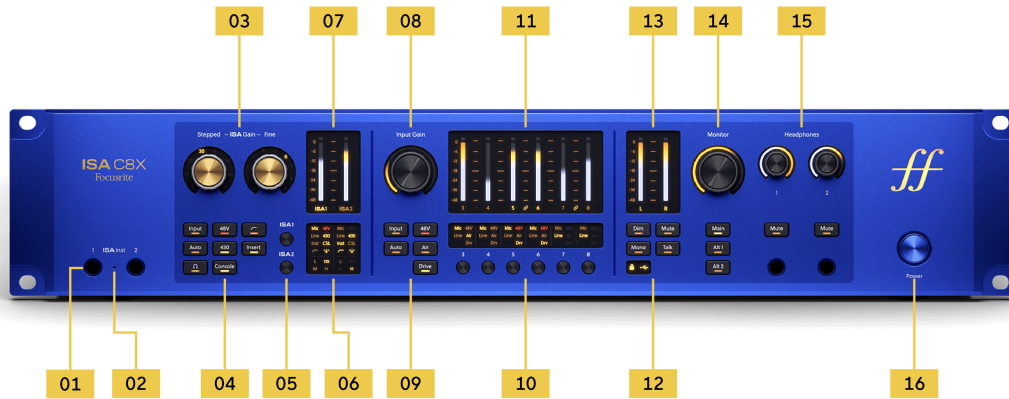


ISA C8X をラックマウントする場合は、ゴム足の取り付けは不要です。



ISA C8X 各部の名称と特徴

ISA C8X フロントパネル

ISA C8X のフロントパネルの各機能の詳細は、[フロント・パネルの各機能 \[10\]](#)をご参照ください。

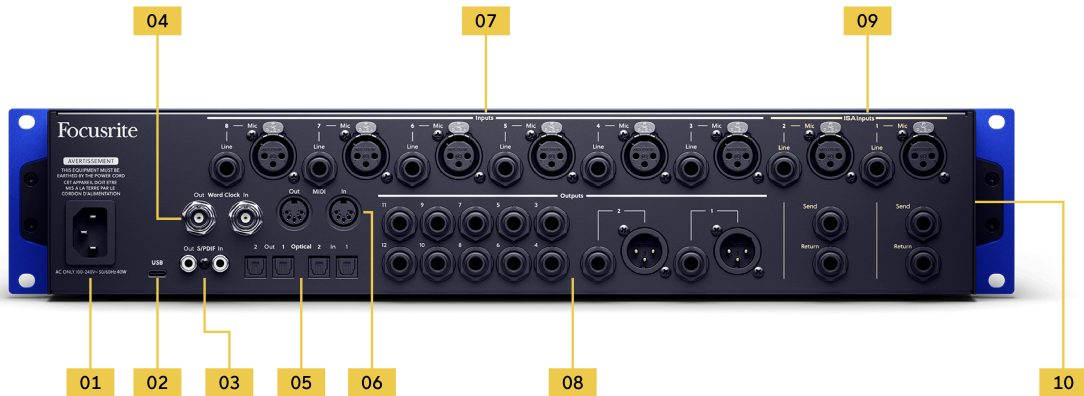


1. **ISA Inst** - 2 系統の 6.35mm インストゥルメント入力ジャック。楽器レベルの信号ソースを ISA プリアンプチャンネルに接続するための入力です。
2. トークバック・マイク - トークバック用マイクはここに搭載されています。
3. **ISA Gain ノブ [12]** - **Stepped** (左) と **Fine** (右) の 2 つのノブで ISA プリアンプ入力 1/2 のゲインレベルを調整します。
4. **ISA チャンネル・コントロールボタン [10]** - 8 つのボタンで ISA プリアンプ 1 および 2 の各機能を設定できます。各ボタンは、信号経路に沿って左から右、上から下の順に配置されています。
 - **Input** ボタン - 各 ISA チャンネルは、Mic、Line、Inst の 3 つの入力タイプを選択できます。Input ボタンを押すと、各入力タイプが順に切り替わります。
 - **48V** ボタン - コンデンサー・マイクに電源を供給するための XLR マイク入力の 48V ファンタム電源を有効にします。
 - **ハイパスフィルター** ボタン - 不要な低音域を除去するためのハイパスフィルター (二周波数 75Hz、18dB/オクターブ) を有効にします。各チャンネルで個別に適用できます。
 - **Auto** ボタン - オートゲイン機能を開始します ([オートゲインのページ参照](#))。 [16]
 - **430** ボタン - 430 Air モードを適用します。トランス回路の効果により、高音域にクリアで開放的な質感を加えます ([430 \[20\]](#) を参照)。
 - **Insert** ボタン - チャンネル・インサートのリターン信号を有効にします。
 - **インピーダンス Ω** ボタン - 入力インピーダンスを設定します。Mic 入力では 4 つ、Inst 入力では 2 つのインピーダンス設定を選択できます。詳細は、 [インピーダンス \[21\]](#) の章をご参照ください。
 - **Console** ボタン - アナログ回路による Console モードを有効にします。ソフトクリップ・サチュレーションを柔軟に付与でき、温かみやパンチ、クラシックなアナログキャラクターを簡単に追加できます ([Console \[21\]](#) を参照)。
5. **ISA 1 および ISA 2 選択ボタン [10]** - ISA ゲイン・ノブおよびチャンネルコントロール・ボタンで設定を行う ISA チャンネルを切り替えるためのボタンです。
6. **ISA チャンネル・インジケータ** - 各 ISA チャンネルごとに 12 の LED を備え、有効な設定 (コントロール設定や入力タイプ) を表示します。
7. **ISA 1 / ISA 2 メーター [14]** および **選択インジケータ** - 各 ISA チャンネルのレベルメーターが表示されます。選択中のチャンネルまたはリンク状態も確認できます。

8. **チャンネル 3~8 入力ゲイン [13]** - 選択中のチャンネル 3~8 のプリアンプゲインを調整します。
9. **チャンネル 3~8 コントロールボタン [10]** - 5 つのボタンでプリアンプ 3~8 の各機能を設定します。各ボタンは、信号経路に沿って左から右、上から下の順に配置されています。
 - **Input** ボタン - 各チャンネルでは、Mic または Line の入力タイプを選択できます。Input ボタンを押すことで、それらを順番に切り替えることができます。
 - **48V** ボタン - コンデンサー・マイクに電源を供給するための XLR マイク入力の 48V ファンタム電源を有効にします。
 - **Auto** ボタン - オートゲイン機能を開始します (**オートゲインのページ参照**)。 [16] [16]
 - **Air** ボタン - AIR モードを有効にします (詳細は **Air モード [22]**参照)。
 - **Drive** ボタン - 内蔵 DSP によるハーモニック・ディストーションを有効にします。アナログの温かみをエミュレートする機能です (詳細は **Drive [22]**参照)。
10. **チャンネル選択ボタン 3~8 [10]** - 入力ゲインや各種コントロールボタンで設定を行うチャンネルを選択します。
11. **チャンネル 3~8 メーターおよび選択インジケータ [14]** - 3~8 チャンネルのメーターおよび選択中のチャンネルを示す LED です。
12. **メイン出力選択 [24]**およびステータス・インジケータ：
 - **Dim** ボタン - ボタンを押すと、出力レベルが 18dB 下がります。
 - **Mute** ボタン - 出力信号をミュートします。
 - **Mono** ボタン - モニターグループをモノラルに変換します。
 - **Talk - Talk** ボタンを押している間、トークバック機能が有効になります。トークバックを有効にすると Talk のラベルが緑色に点灯し、トークバック・マイク信号が設定した出力に送信されます (例：ミュージシャンとやり取りするため、ヘッドフォン出力にトークバック信号を送信)。
Talk 有効時は、Dim 機能もオンになります。モニターレベルが下がるため、円滑なコミュニケーションが可能になります。
 -  同期ステータス - ISA C8X が自身または外部デジタル機器と同期している場合、このアイコンが緑色に点灯します。同期できない場合、白色に点灯します。
 -  USB LED - ISA がコンピューターに認識されると、橙に点灯します。コンピューターに接続されていない場合 (スタンドアローン・モード時) は、薄く点灯します。
13. **L** および **R** - LR 出力のレベルメーター。
14. **Monitor セクション [24]** - モニター出力レベル調整ノブおよびスピーカー選択ボタン (**Main**、**Alt 1**、**Alt 2**)。
15. **Headphones [31]**セクション - ヘッドフォン出力レベルノブ、**Mute** ボタン、6.35mm ヘッドフォン出力端子をそれぞれ 2 系統搭載。
16. **Power** - ISA C8X のオン / オフを切り替える電源スイッチ。

ISA C8X リアパネル

ISA C8X のリアパネルの詳細は、[リアパネルの各機能 \[32\]](#)をご参照ください。



1. 電源入力 - 標準的な IEC 電源入力。
2. **USB - Scarlett** とコンピュータを接続するための **USB-C** コネクタ。
3. **S/PDIF Out** および **In** - 2 チャンネルの S/PDIF デジタルオーディオ信号を入出力する RCA ソケット。
4. **Word Clock** - 外部デジタルオーディオ機器との同期信号を入出力するための BNC コネクタ (**Out** および **In**)。
5. 光学外 **1/2** そして **1/2** - ADAT 形式で最大 16 チャンネルのデジタルオーディオ入出力に対応する 4 つの TOSLINK コネクタ 44.1/48 kHz または 88.2/96 kHz のサンプルレートで。2 チャンネルの光 S/PDIF 信号を受信および送信するように、In と Out を設定できます。
6. **MIDI** 出力と入力 - 標準的な DIN5 ピン・ソケットで外部 MIDI 機器に接続します。は MIDI インターフェイスとして動作し、コンピュータと MIDI データをやりとります。
7. **Inputs 8 ~ 3** - 6 つの XLR Mic 入力および 6 つの 6.35mm **Line** 入力ジャック。チャンネル 3 ~ 8 が逆順に配置されています。
8. **Outputs** - 出力 **2** および出力 **1** は XLR メスおよび 6.35mm ソケット、出力 **3 ~ 12** は 6.35mm ジャックから各信号を出力します。
9. **ISA** チャンネル入力 **2** および **1** - 2 つの XLR Mic メス入力と、2 つの 6.35mm **Line** 入力ジャック、および各 ISA 入力用 6.35mm **Send / Return** ジャック。
10. **ff** ベンチレーション - Focusrite 伝統の「foundations first」ロゴをモチーフにした冷却用通気口。本機をお使いの際は、この通気口を塞がないようご注意ください。

フロント・パネルの各機能

本章では、のフロントパネルのすべての機能を紹介し、Focusrite Control 2 での操作方法についても解説します。

入力セクション

このセクションでは、ISA C8X の入力に関する設定を行います。



ISA C8X は、各プリアンプセットごとに 2 つの入力セクションを備えます。1 つは入力 1 および入力 2 の ISA プリアンプ用、もう 1 つはプリアンプ 3~8 用です。

プリアンプを選択すると、フロントパネルのノブやボタンが選択したプリアンプの操作に割り当てられます。一度に 2 つのプリアンプを選択でき、1 つは ISA プリアンプ、1 つはプリアンプ 3~8 から選択できます。

以下の表は、各プリアンプで利用できるコントロールボタンを示しています。

ISA inputs 1~2	プリアンプ 3~8
入力	入力
Mic、Line、Inst	Mic または Line
48V	48V
オートゲイン	オートゲイン
チャンネル選択ボタン	チャンネル選択ボタン
Stepped および Fine ゲイン調整ノブ	入力ゲイン・ノブ
430 Air	AIR
Console	Drive
ハイパスフィルター	
Insert	
インピーダンス Ω	

プリアンプチャンネルを選択する

チャンネルの入力ゲインや各種プリアンプ設定を変更するには、該当するプリアンプ・チャンネルを選択します。

- ISA チャンネルを選択するには、**ISA 1** または **ISA 2** ボタンを押します。
メーター下部の ISA 1 または ISA 2 が点灯し、選択したチャンネルを確認できます。
- チャンネル 3~8 を選択するには、チャンネルメーター下部の **3~8** のボタンを押します。
メーター下部の LED が点灯し、選択中のチャンネルを確認できます。



ISA プリアンプを選択



プリアンプ 3~8 を選択

チャンネルをリンク [23]している場合は、該当するチャンネルがいずれも点灯します。

チャンネル入力ソースを選択する

C8X の各入力チャンネルは、接続タイプごとに専用のコネクタが用意されています。これにより、すべての機器を接続したままにできます。パッチベイを使用してソースを素早く切り替えることも可能です。



各入力は、Mic/Line 入力用に個別のコネクタを備えます。ISA 入力は、フロントパネルのインストゥルメント入力を利用できます。

入力ソースの変更は、ISA チャンネルおよびチャンネル 3~8 の **Input** ボタンで行います。**Input** ボタンを押すたびに入力ソースが順に切り替わり、メーター下部のインジケータで選択中の入力ソースを確認できます。



Input ボタンを押すたびに、以下の入力ソースが順に切り替わります：

- ・ ISA プリアンプ：
 - ・ マイクロフォン
 - ・ Instrument
 - ・ ラインレベル

- 超低ノイズ Focusrite マイクプリアンプ :
 - マイクフォン
 - ラインレベル

入力ソースを変更しても、プリアンプの設定はそのまま保持されます。



C8X のライン入力に適用されるプリアンプ・コントロールについて

ライン入力で使用できる設定は、他の入力と若干異なります。ライン入力選択時は、以下の項目は使用できなくなります。

- ゲイン (ライン入力は入力ゲインが固定)
- 48V
- ハイパスフィルター
- オートゲイン
- 430 Air/Air
- インピーダンス Ω

ISA C8X の入力ゲインを設定する

プリアンプの入力ゲインを使うと、コンピュータおよび録音ソフトウェアへ送信する信号レベルを調整できます。

最高の音質での録音を行うには、プリアンプの入力ゲインを適切に設定することが重要になります。プリアンプの入力ゲインが低すぎると入力信号が小さくなります。この状態で録音した信号のレベルを上げると、ノイズが大きく聞こえる場合があります。反対にプリアンプの入力ゲインが高すぎると、入力信号がクリップし耳障りな歪みが録音されてしまう可能性があります。

ISA プリアンプの入力ゲインを使用する

各 ISA プリアンプは、2 種類のゲイン・ノブを備えます。これらは連動して動作し、マイクまたは楽器入力のゲインを効率的に設定できます。**Stepped** ノブはゲインを 10dB 刻みで調整でき、大まかなゲインレベルを設定できます。**Fine** ノブはゲインを 1dB 刻みで設定でき、ゲインレベルの微調整を行うことができます。



Stepped ノブと Fine ノブを組み合わせることで、79dB のゲインレンジを得ることができます。



ヒント

Fine ノブだけでゲインを調整することも可能です。**Fine** ノブが最大値に達すると、**Stepped** ノブの値が 1 段階増加します。

例えば **Stepped** が 20dB、**Fine** が 9dB に設定されている場合、**Fine** ノブを時計回りに回すと **Stepped** は 30dB に増加し、**Fine** は 0dB にリセットされます。

ISA チャンネルを切り替えると、選択したチャンネルの保存済みゲインが両方のゲインインジケーターに表示されます。

Stepped ゲイン・ノブ

Stepped ゲイン・ノブは、70dB の範囲でゲインレベルを 8 段階で設定します。チャンネル選択後、Stepped ゲイン・ノブを回すと、8 つのポジション (0dB、10dB、20dB など) を切り替えることができます。現在の値は、エンコーダー周囲の LED で表示されます。

Stepped ノブが最大値または最小値に達すると、ゲインはそれ以上増減しません。ゲインの微調整は、Fine ノブで行うことができます。

Fine ゲイン・ノブ

Fine ゲイン・ノブは、10 段階のより小刻みな間隔で最大 9dB のゲインを追加します。

チャンネル選択後、**Fine** ゲイン・ノブを回すと、10 段階でゲインが変更されます。現在のゲイン値は、ノブ周囲のインジケーターに表示されます。

Fine ノブの値が最大値に達すると、Stepped ゲイン値が 1 段階増加します。例えば、Stepped ゲインが 40、Fine ゲインが 9 のとき、Fine ノブを右に回すと Stepped ゲインが 50 に増加し、Fine ゲインは 0 にリセットされます。

Stepped ノブと Fine ノブを組み合わせることで、79dB のゲインレンジを得ることができます。

楽器入力ゲイン

入力タイプを Inst に設定すると、両方のゲイン設定が有効のままとなり、入力が Mic の場合と同様に 79dB のゲインレンジで調整可能です。ゲイン値は Mic 入力と Inst 入力の切り替えを行っても変わりません。

プリアンプ 3~8 の入力ゲインを使用する

標準チャンネル (プリアンプ 3~8) の入力ゲインを設定するには、チャンネル選択ボタンで目的のチャンネルを選択し、**Input Gain** ノブを回します。

現在のゲインレベルは、ノブ周囲の点灯で確認できます。このメーターを確認しながら適切なレベルを調整してください。



ゲインは 1dB 刻みで変化し、69dB のゲインレンジをカバーします。

入力メータリング

メーター 1 ~ 8 は、の入力チャンネルの入力レベルを表示します。

プリアンプの入力ゲインを上げたり、またはソース信号レベルが大きくなるとレベル・メーターが上昇し、コンピューターへの入力信号レベルが大きくなったことを示します。



メーターの右側には、-42dBFS ~ 0dBFS の目盛りが記載されています。レコーディングの際は、メーターが -18dBFS 付近を示し、最大レベルのときに -12dBFS に達する様に入力信号レベルを調整することで、適切な信号レベルのレコーディングが可能です。



ヒント

信号がクリップすると、メーター上部のクリップ・インジケーターが赤色に点灯します。クリップ・インジケーターが点灯した場合は、該当するチャンネルを選択し、点灯が消えるまでゲインを下げてください。

Input ボタン

Input ボタンを押すと、選択可能な入力ソースを順番に切り替えられます。選択中のソースは LED の点灯で確認できます。

- ・ チャンネル 1~2 : **Mic/Line/Instrument**
- ・ チャンネル 3~8 : **Mic/Line**

各チャンネルでは、同時に 1 つの入力タイプを使用できます。

Focusrite Control 2 で入力ソースを変更する

Focusrite Control 2 では、各チャンネルストリップ上部のセレクターで入力ソースをリモートで変更できます。

ISA 入力では、Mic、Line、Inst を選択できます。入力 3~8 では、Mic と Line を選択できます。



注記

Line または Inst を選択すると、これらの入力タイプで利用できない設定が Focusrite Control 2 で無効になります。

48V ボタン (ファンタム電源)

48V (別名ファンタム電源) は、電源を必要とする接続機器に 48V の電圧をインターフェースの XLR コネクタから供給します。主な用途はコンデンサー・マイクですが、48V を必要とするインライン・マイク・プリアンプやアクティブ・ダイナミック・マイク、アクティブ DI ボックスなどにも使用できます。

48V を有効にするには：

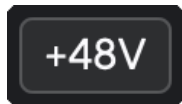
1. 電源を供給したいマイクやその他の機器を、XLR ケーブルでインターフェースの XLR 入力に接続します。48V は 6.35mm (1/4 インチ) ジャック入力には供給されません。
2. 目的の入力チャンネルを選択します。
3. 48V ボタン (またはソフトウェアの「+48V」ボタン) を押します。

48V アイコンが点灯し、48V ファンタム電源が有効になったことを示します。

これで、選択した XLR 入力および接続先の機器に 48V ファンタム電源が供給されます。

48V (ファンタム電源) をソフトウェアで有効にする

48V (ファンタム電源) を Focusrite Control 2 で有効にするには、+48V ボタンをクリックします。これは本体フロントパネルの 48V ボタンと同様の動作です。



+48V ファンタム電源オフ



+48V ファンタム電源オン



重要

大半のダイナミック・マイクやリボン・マイクでは、48V ファンタム電源を誤って供給しても問題が生じることはありません。ただし一部の旧型マイクの場合、ファンタム電源を供給することで悪影響を及ぼす可能性があります。お使いのマイクにファンタム電源が必要かどうか不明な場合は、マイクの取扱説明書を確認し、48V ファンタム電源で安全に使用できることをご確認ください。


不明な場合は、お使いのマイクの取扱説明書を参照し、ファンタム電源に対応しているかをご確認ください。

ハイパスフィルター・ボタン

ハイパスフィルター・ボタンを押すと、75Hz、18dB/オクターブのハイパスフィルターが選択中の入力チャンネルで有効になります。

ハイパスフィルターを使用すると、不要な低域成分 (マイクスタンドの振動など) を抑えることができます。

ハイパスフィルターをソフトウェアで有効にする

Focusrite Control 2 でハイパスフィルターを有効にするには、目的のチャンネルにあるハイパスフィルター・ボタン  をクリックします。これは本体フロントパネルのハイパスフィルター・ボタンと同様の動作です。



ハイパスフィルター オフ



ハイパスフィルター オン

Inst<0/>とラインを切り替える際、ゲイン値は最後に設定されていた値に変更されます。

オートゲインを開始し、ISA C8X へ信号を 10 秒間入力 (マイクに向かって話す、または楽器を演奏) すると、プリアンプの入力ゲインが最適なレベルに自動的に設定されます。オートゲイン設定後、ゲイン・ノブを用いてゲイン値を手動で微調整することもできます。

オートゲインを使用するには：

1. **Select** ボタンでオートゲインを設定したいプリアンプを選択します。
2. 本体の **Auto** ボタン、またはソフトウェアの **Auto Gain** ボタンを押します。
Auto アイコンが 10 秒間緑色に点灯します。ゲイン Halo が 10 秒間のカウントダウン・タイマーとして点灯を開始します。
3. オートゲインのカウントダウンが終了するまでマイクに向かって話す (または歌う) か、楽器を演奏します。このとき本番のレコーディングと同じ音量で演奏する (歌う) ことで、適切なレベルを設定できます。

カウントダウンが完了すると、メーターが緑色に点灯した後、設定されたゲイン値が表示されます。以上でレコーディングに適切なレベルのゲイン設定が完了となります。

オートゲインの処理が失敗すると、ゲイン Halo は赤く点灯します。詳細は、「[ゲイン Halo が赤く点灯した場合](#)」をご参照ください。[16] [16]



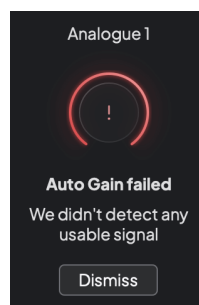
注記

ISA のオートゲイン機能では、入力信号レベルの他に以下の要素も考慮に入れてレベルが設定されます。

- ・プリアンプのノイズフロア
- ・デジタルサイレンス
- ・チャンネル間クロストーク
- ・意図しない振動や接触などによるノイズ

オートゲインの処理が失敗し、ゲイン Halo は赤く点灯した場合

入力信号がオートゲインに不適切 (信号が入力されない等) だった場合は、10 秒後にオートゲイン処理が停止し、ゲイン Halo が 1 秒間赤く点灯します。この場合、ゲイン値はオートゲイン開始前の値に復帰します。



オートゲイン失敗

これは、信号が入力されない、入力信号レベルが小さすぎる、または大きすぎる、などの理由でオートゲインが適切に処理できない場合に発生します。このエラーが生じた場合は、以下をお試しください。

- ・入力ソースが入力端子に正しく接続されているか確認する。
- ・コンデンサーマイクを使用する場合は、48V (ファンタム電源) を有効にする。

- ・ オートゲイン実行中は音を出し続ける。
- ・ 信号レベルを大きくしすぎない。
 - ・ シンセ、キーボード、アンプシミュレーターなどのラインレベル機器を接続する場合は、XLR 入力ではなく 6.35mm ジャック入力を使用してください。
 - ・ ソース機器の出力レベルを下げてください。
- ・ 信号レベルが小さすぎる場合は、オートゲインを開始する前に入力ゲインを 25～50%上げる。



注記

オートゲイン実行中に Auto Gain ボタンを再度押すと、いつでも処理を中止できます。この場合、ゲイン値はオートゲイン開始前の値に復帰します。

マルチチャンネル・オートゲイン

オートゲインを開始し、ISA C8X へ信号を 10 秒間入力（マイクに向かって話す、または楽器を演奏）すると、プリアンプの入力ゲインが最適なレベルに自動的に設定されます。オートゲイン設定後、ゲイン・ノブを用いてゲイン値を手動で微調整することもできます。

オートゲインはのすべてのチャンネルで使用できます。

マルチチャンネル・オートゲインを使用するには

1. **Auto ボタンを 1 秒間長押しします。**
マルチチャンネル・オートゲイン・モード時は、すべての **Select ボタンが緑色に点滅**します。
2. オートゲインを有効にしたいチャンネルの **Select ボタン**を押します。
3. 演奏の準備ができたなら、**Auto ボタンを再度押すと、選択したチャンネルでオートゲイン処理が実行**されます。



注記

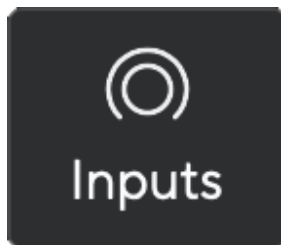
オートゲイン実行中に Auto Gain ボタンを再度押すと、いつでも処理を中止できます。この場合、ゲイン値はオートゲイン開始前の値に復帰します。

Focusrite Control 2 でマルチチャンネル・オートゲインを実行する

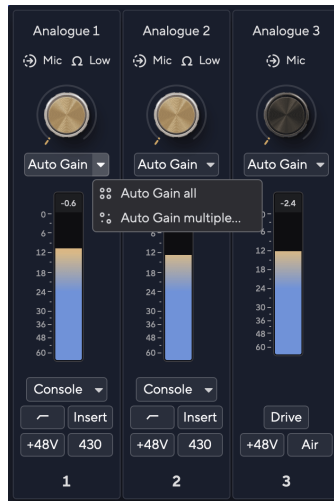
マルチチャンネル・オートゲインは、Focusrite Control 2 から実行できます。手順は以下の通りです。

手順は以下の通りです：

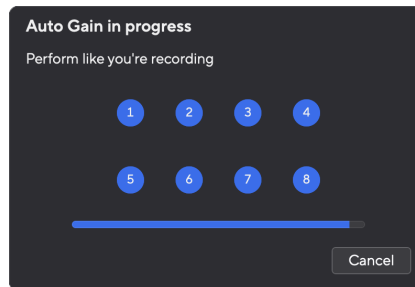
1. Focusrite Control 2 を開き、インプット・タブを開きます。



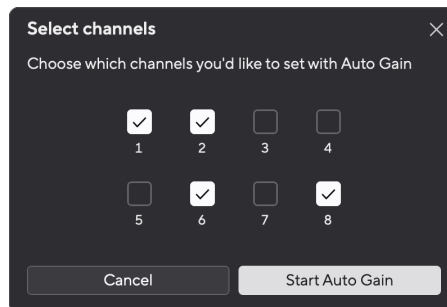
2. Auto Gain ボタンの右にある矢印アイコンをクリックしてドロップダウン・メニューを開きます。



3. 「Auto Gain all」または「Auto Gain multiple...」のいずれかを選択します。

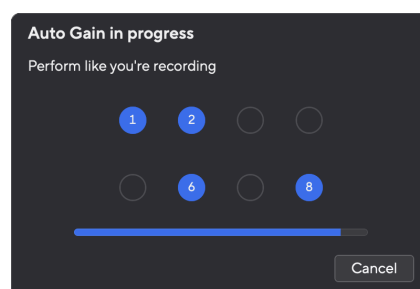
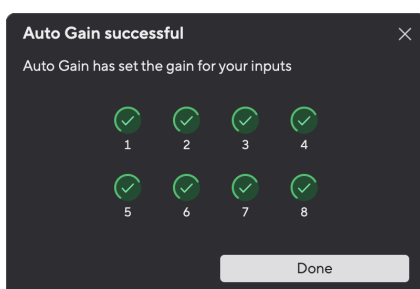


- 「Auto Gain multiple...」は、任意のチャンネルでオートゲイン機能を実行できます。
4. 「Auto Gain multiple...」を選択した後、オートゲインを実行したいチャンネルのチェックボックスを有効にします。



5. Start Auto Gain をクリックすると、選択したチャンネルでオートゲインが実行されます。

オートゲイン処理が完了すると、実行したチャンネルと新たに変更されたゲイン・レベルが Focusrite Control 2 に表示されます。

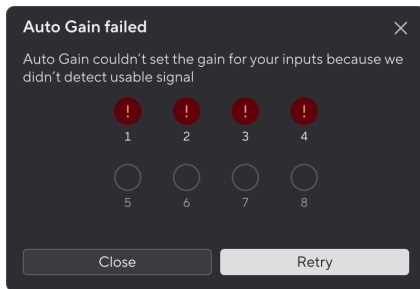


すべてのチャンネルにオートゲインを実行

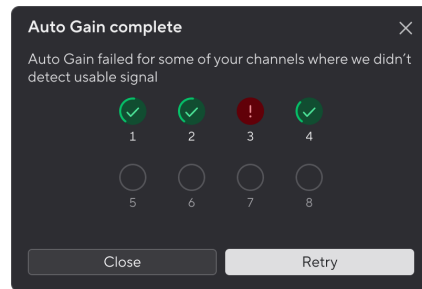
任意のチャンネルにオートゲインを実行

マルチチャンネル・オートゲインのエラー表示

マルチチャンネル・オートゲインの処理は、対象チャンネルまたはすべてのチャンネルの処理中に失敗する可能性があります。



すべてのチャンネルでオートゲインが失敗すると、オートゲインが失敗した旨のメッセージが表示されます。



オートゲインを実行したチャンネルのうち、一部のチャンネルで処理が失敗した場合は、オートゲイン完了のメッセージが表示されます。このとき Retry ボタンを押すことで、すべてのチャンネルに対してオートゲイン処理を再試行することができます。

その場合は、以下のいずれかの方法で解決できます。

- Retry をクリックして選択した **すべてのチャンネルに対してオートゲインを再実行します。この場合は、オートゲインが成功したチャンネルにも再度処理が実行されます。**
- Close をクリックし、失敗したチャンネルに対してオートゲインを改めて実行します。
- Close をクリックし、オートゲインが失敗したチャンネルのゲインを手動で調整します。

430 ボタン

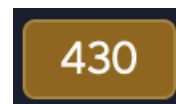
430 Air は、ISA 430 MkII の Mic Air モードを現代的に再現した機能です。高域成分を強調し、サウンドに空気感や広がり (エア) を加えます。インダクター (コイル) 回路により、EQ を使用せずにプリアンプと連動してクリアなサウンドを実現します。

430 モードをソフトウェアから使用する

Focusrite Control 2 から 430 Air を有効にするには、プリアンプのチャンネルストリップにある 430 ボタンをクリックします。これは、本体フロントパネルの 430 ボタンと同様の動作です。



430 Air オフ



430 Air オン

Insert ボタン

Insert ボタンを押すと、選択した ISA プリアンプの **Send/Return** TRS 接続を経由するかどうかを切り替えます。これにより、信号が ADC に到達する前にコンプレッサーや EQ などのアウトボード機器を使用できます。

Insert をソフトウェアから使用する

Focusrite Control 2 からインサートポイントを有効にするには、チャンネルストリップ下部の Insert ボタンをクリックします。これは、本体フロントパネルの **Insert** ボタンと同様の動作です。



インサートポイント オフ



インサートポイント オン

インピーダンス Ω 設定

Ω 印のインピーダンスボタンを押すと、Mic 入力では 4 段階、ISA Inst 入力では 2 段階の入カインピーダンスを切り替えることができます。選択中の設定は ISA インジケータ LED で確認できます。インピーダンスの値は、プリアンプのゲインや周波数特性、接続されたマイクの動作に影響を与えます。

Line 入力のインピーダンス値は 20kΩ で固定されており、Ω ボタンの影響は受けません。

表 1 Mic 入カインピーダンス設定

Low	800Ω
ISA 110	1.4kΩ
Med	2.4kΩ
High	7kΩ

表 2 ISA Inst 入カインピーダンス設定

Low	400kΩ
High	1.2MΩ

インピーダンスをソフトウェアから変更する

Focusrite Control 2 からプリアンプのインピーダンスを変更するには、プリアンプのチャンネルストリップ上部にあるインピーダンス Ω ボタンをクリックします。

入カタイプによって利用可能なインピーダンス値が異なります。Focusrite Control 2 では、選択中の入カタイプで使用できないインピーダンスがグレーアウトします。

Console モード

Console ボタンを有効にすると、ISA チャンネルのサウンド特性がアナログ回路の様な挙動になります。低い信号レベルではクリーンで透明感のあるサウンドを保ち、強めにドライブする（大きめの信号レベルを入力する、またはゲインを上げる）につれてアナログ・サチュレーションの効果が追加されます。

Console はアナログ回路の効果を連続的に変化させるエフェクトで、温かみのあるサチュレーションと低音域の力強さを信号に加えることができます。

ソフトクリップ回路により、効果の度合いを自由に調整可能です。

Variable Console モード

Variable Console を使うと、Console モードの効果をチャンネル毎に調整できます。Console ボタンを 1 秒間押したままにすると、Variable Console モードが有効になります。

Variable Console モードを有効にすると：

- Console ボタンとインジケータ LED が青に点滅します。
- ISA Fine の表示が青に変化します。

ISA Fine ゲイン・ノブで Console の効果を調整できるようになります。ノブ周囲の点灯でエフェクト量を確認できます。

チャンネルを切り替えると、そのチャンネルの Console 設定に応じて動作が変更されます。

- Console 有効時、Fine ゲインは Variable Console モードとして動作し、切り替えたチャンネルの Console 値を表示します。
- Console をオフにすると、Fine ゲインは通常のゲイン調整ノブに復帰します。

Console ボタンを押すと、Variable Console モードが終了します。Console がオフの状態でも Variable Console モードに入ると、そのチャンネルの Console が自動的に有効になります。

チャンネルがリンクされている場合、Console エフェクトは両方のチャンネルに同時に反映されます。



注記

Variable Console モードでは、ISA Gain コントロールが一時的に利用できなくなります。

Focusrite Control 2 から Console を調整する

Focusrite Control 2 では、Console モードのオン / オフの切り替えと、スライダーによるエフェクト量の調整が行えます。

Console がオンのとき、**Console** ボタンは橙に点灯します。

Variable Console モードを調整するには、Console ボタンのドロップダウンをクリックしてスライダーを調整します。左に動かすと効果が控えめになり、右に動かすとサチュレーションと低域の力強さが増加します。

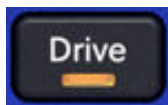
Air モード

Air ボタンを押すと、Air モードが有効になります。Air モードをオンにすると、アナログ・ハイシェルビング回路によってプリアンプの周波数特性がわずかに変化し、トランスを搭載するクラシックな ISA マイクプリアンプのインピーダンス特性が再現されます。

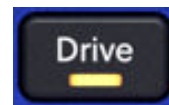
マイク録音では、中音域の明瞭さと輪郭が向上します。Air モードはほとんどの音源に効果的ですが、特にボーカルや生楽器との相性は抜群です。

Drive ボタン

本体フロントパネルの **Drive** ボタンを押すと、Drive モードが有効になります。Drive をオンにすると、DSP によるハーモニック・ディストーションを調整でき、アナログプリアンプの温かみを再現できます。



Drive オン



Drive オフ

Variable Drive モード

Variable Drive を使うと、Drive モードの効果をチャンネル毎に調整できます。**Drive** ボタンを 1 秒間押したままにすると、Variable Drive モードが有効になります。

Variable Drive モードを有効にすると：

- **Drive** ボタンの LED が青に点滅します。
- **Input Gain** の動作が Variable Drive モードに切り替わります。

Input Gain ノブを回すと、Drive の量を調整できます。ノブ周囲の点灯でエフェクト量を確認できます。

チャンネルを切り替えると、そのチャンネルの Drive 設定に応じて動作が変更されます。

- Drive 有効時、Input Gain は Variable Drive モードとして動作し、切り替えたチャンネルの Drive 値を表示します。
- Drive をオフにすると、Input Gain は通常のゲイン調整ノブに復帰します。

Drive ボタンを押すと、Variable Drive モードが終了します。Drive がオフの状態でも Variable Drive モードに入ると、そのチャンネルの Drive が自動的に有効になります。

チャンネルがリンクされている場合、Console エフェクトは両方のチャンネルに同時に反映されます。

Focusrite Control 2 から Drive を調整する

Focusrite Control 2 では、Drive モードのオン / オフの切り替えと、スライダーによるエフェクト量の調整が行えます。

Drive がオンのとき、**Drive** ボタンは橙に点灯します。

Variable Drive モードを調整するには、Drive ボタンのドロップダウンメニューをクリックし、スライダーを操作します。左から右にスライダーを動かすことで、繊細なエフェクトに歪みと温かみが徐々に追加されます。

プリアンプをリンクする

チャンネルをリンクすると、隣接する 2 つのチャンネルをペアとして同時に操作できます。ステレオソースやペア入力で同じ設定を使いたい場合に便利です。



リンクできるチャンネル

リンク可能なチャンネルは、隣接するチャンネル同士のみ固定されています。リンクできるチャンネルペアは以下の通りです：

- チャンネル 1、2
- チャンネル 3、4
- チャンネル 5、6
- チャンネル 7、8

チャンネルをリンクするには：

1. ペアのいずれかのチャンネルボタンを長押しします。
2. ボタンを 1 秒間押し続けて離すと、リンク LED が点灯し、チャンネルがリンクされたことを示します。

チャンネルがリンクされていると：

- リンクされたチャンネル LED が点灯します。
- リンクされた各チャンネルのすべてのコントロールがリンクされ、まとめて操作できます。
 - プリアンプゲイン - 予期しないレベル変化を防ぐため、ペアとなる 2 つのチャンネルの低い方のゲイン値が使用されます。
 - 48V ファンタム電源 - リンク時にいずれかのチャンネルで 48V ファンタム電源が有効だった場合、両方のチャンネルのファンタム電源がオフになり、初期設定に戻ります。
 - コントロールボタン - チャンネル選択ボタンを押しながらリンクを有効にすると、そのチャンネルの設定が両方のチャンネルに適用されます。たとえば、チャンネル 3 選択ボタンを押しながらリンクを有効にすると、チャンネル 3 の設定状態がチャンネル 3 と 4 に適用されます。
リンクされたペアのすべての設定 (ゲイン、パッド、ファンタム電源インジケータなど) は、両方のチャンネルに対して同時に適用されます。

プリアンプのリンクを解除

リンクを解除するには：

1. ペアのいずれかのチャンネルボタンを長押しします。
2. ボタンを 1 秒押し続けると、右側のチャンネルとリンク LED の点灯が暗くなり、リンクが解除されたことを示します。

リンクが解除されると：

- 片方のチャンネル LED が消灯します。
- 各チャンネルの設定はそのまま保持され、個別にコントロール可能になります。

出力セクション

このセクションでは、ISA C8X の出力に関する設定を行います。



ISA C8X は、12 の割り当て可能なアナログ出力を備え、各出力で Dim、Mute、Sum、トークバック、スピーカー切り替え機能を利用できます。さらに、独立 2 系統のヘッドフォン出力を備えており、レベルやミュートをハードウェアおよびソフトウェアの両方から制御できます。

モニターコントロール・セクション

このセクションでは、以下のモニター出力関連の設定を行います。

- [Dim \[25\]](#)
- [Mute \[25\]](#)
- [Mono \[25\]](#)
- [Monitor \[28\]](#) ノブ
- [モニターグループ \(Main、Alt 1、Alt 2 \) ボタン \[28\]](#)

Dim ボタン

Dim ボタンを押すと Dim が緑色に点灯し、出力信号が 18dB 減衰します。



Dim オフ (白)



Dim オン (緑)

Dim ボタンを使うと、再生を止めずに会話をしたり、アイデアを試したりすることができます。

デフォルトでは、Dim は Main モニター出力 1 および 2 に反映されます。Focusrite Control 2 にて Alt 出力にも Dim を反映させるように設定可能です。

ソフトウェアによる Dim のコントロール

Focusrite Control 2 から

Dim をコントロールするには、右側の Outputs セクションにある Dim ボタンをクリックします。[25]
[25]

Dim ボタンは、本体フロントパネルの Dim ボタンと同様に動作し、各出力への信号レベルを 18dB 減衰させます。



Dim オフ



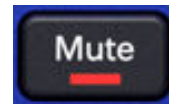
Dim オン

ミュートボタン

Mute ボタンを押すと、Mute が緑色に点灯し、出力信号がミュートされます。



Mute オフ (白)



Mute オン (緑)

ミュート機能はデフォルトで出力 1-2 に適用されます。Focusrite Control 2 で設定することで、Alt 出力をミュートさせることも可能です。

ソフトウェアによるミュートのコントロール

Focusrite Control 2 で

Mute をオン/オフにするには、Outputs セクション右側の Mute ボタンをクリックします。[25] [25]

Mute ボタンはのフロント・パネルの Mute ボタンと同様に機能します。有効にすると、Mute ボタンが緑色に点灯します。



Mute オフ



Mute オン

Mono ボタン

Mono ボタンを押すと、左右の信号がサミングされ、ステレオモニター・グループをモノラル化できません。

モニターグループを切り替えた場合も、Mono 設定の状態は維持されます。

Mono は、選択中のモニターグループが 2 つの出力で構成されている場合にのみ利用できます。3 つ以上の出力を使用するモニターグループでは、Mono ボタンは機能しません。



Mono ボタン オフ



Mono ボタン オン

ソフトウェアによる Mono のコントロール

Focusrite Control 2 で Mono をオン/オフにするには、Outputs セクション右側の Mono ボタンをクリックします。

Mono ボタンは、本体フロントパネルの Mono ボタンと同様に動作します。



Mono オフ



Mono オン

トークバック・ボタン

Talk ボタンを長押しまたは押すと、トークバックが有効になります。デフォルト設定では、トークバック信号は2つのヘッドフォン出力に送信されます。

Talk ボタンが利用できない場合は、トークバック信号がいずれかのミックスにルーティングされていない可能性があります。詳細は、[ソフトウェアからトークバックを使用する \[27\]](#)をご参照ください。

Talk を有効にすると、ミックス内のその他の出力レベルが 25dB 減衰されます。これにより、演奏者に対するトークバック・マイクの音声聞き取りやすくなります。

Focusrite Control 2 でトークバックの送信先を変更することで、任意のミックスにトークバック信号を送信できます。

デフォルトでは、Talk ボタンは「モーメンタリ」で動作し、ボタンを押している間のみトークバックが有効になります。Focusrite Control 2 で設定することで、Talk ボタンの動作をモーメンタリからラッチに切り替えることもできます。



注意

トークバック用マイクは、インストゥルメント入力の間にある小さな穴の奥に配置されています。

マイクの損傷を防ぐため、穴に物を差し込んだり、空気を吹き付けたり、掃除機で吸引したりしないでください。

ソフトウェアからトークバックを使用する


ソフトウェアのトークバック・ボタンは、モーメンタリまたはラッチのいずれでも動作します。

Talk ボタンをクリックしたまま押し続けるとトークバックはモーメンタリとして動作し、Talk ボタンをクリックするとトークバックがラッチされます。

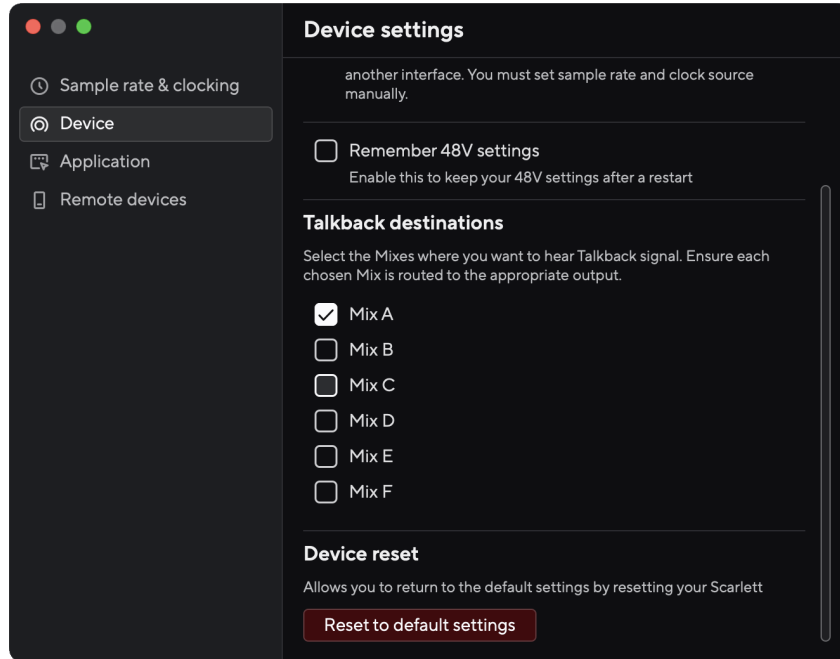
トークバック入力のルーティング

Focusrite Control 2 を使用すると、トークバック・マイクの信号を送信するミックスを選択することができます。

トークバック・マイク信号を送信するミックスを変更するには：

1. 右上にあるリーダー・アイコン 
2. デバイス・タブを開きます。

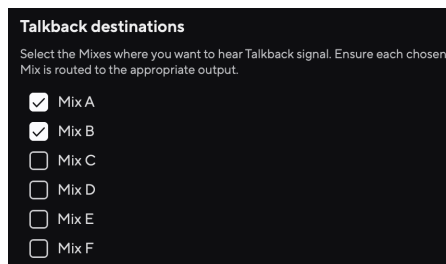
- トークバック信号を送信したいミックスのチェックボックスをクリックします。



トークバックの送信先

トークバック機能を使用するには、トークバック・マイク信号をどの出力に送信するかを ISA に設定する必要があります。設定方法は以下の通りです。

- トークバック信号を送信したい Mix のチェックボックスを有効にします。



- ルーティング・タブにて、ソースとして出力に送信したいミックスを割り当てます (例: Mix A と Mix B を Headphones 1 と Headphones 2 に送信)。詳細は、[Focusrite Control 2 のルーティング・タブを使用する \[53\]](#)をご参照ください。

Monitor ノブとモニターグループについて

Monitor ノブを使用すると、モニタースピーカーから出力される信号レベルを調整できます。Monitor ノブは、3つのモニターグループ、Main、Alt 1、Alt 2 の出力レベルを調整します。これらは Focusrite Control 2 で調整することも可能です。

各モニターグループには、それぞれ任意の出力を割り当てることができ、ボタンを押すだけで異なるモニター構成を簡単に切り替えることができます。



以下のモニターグループを利用できます：

- **Main**
- **Alt 1**
- **Alt 2**

例えば、**Main** を 5.1 サラウンド・システム、**Alt 1** を出力 1-2 によるステレオシステム、**Alt 2** を出力 3 のみによるセンターモノラル・スピーカーとしてミックスの確認用に設定することができます。

モニターグループの設定は、プリセットとして保存・呼び出しが可能です。



重要

デフォルト設定では、**Main** グループのみが有効にされています。**Alt 1** および **Alt 2** は、Focusrite Control 2 で設定するまで使用できません。モニターグループを 2 つのみ設定した場合は、残りのボタンは使用できないままとなり、設定したグループのみを使用できます。

Focusrite Control 2 で出力をグループに割り当てる

モニターグループへの出力の割り当ては、Focusrite Control 2 のルーティングページで行います。各モニターグループには最大 12 のアナログ出力を、ステレオペアまたはモノラル出力として追加できます。各出力には個別のソースを割り当てることが可能です。

いずれかのモニターグループに割り当てた出力は、モニター専用として使用されます。これにより、スピーカーへの誤ルーティングを防ぎます。

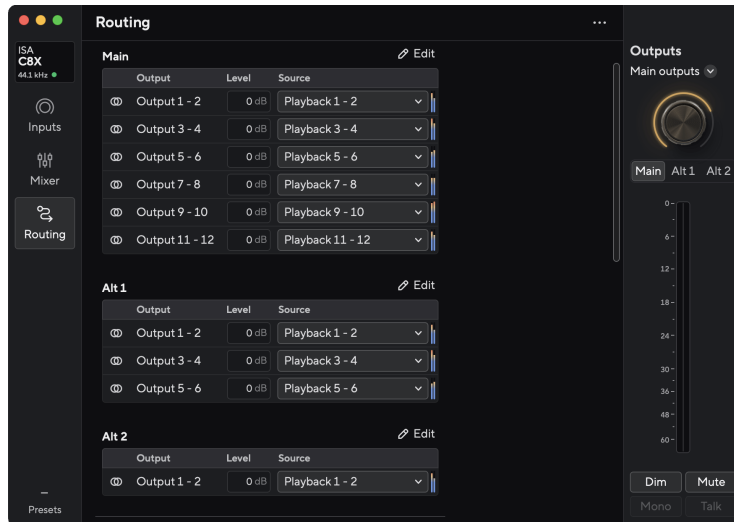
モニターグループに割り当てていない出力は、ルーティングページで通常どおり使用可能です。

各グループの出力レベルは個別に調整できるため、リスニングポジションにおけるレベルマッチングも可能です。

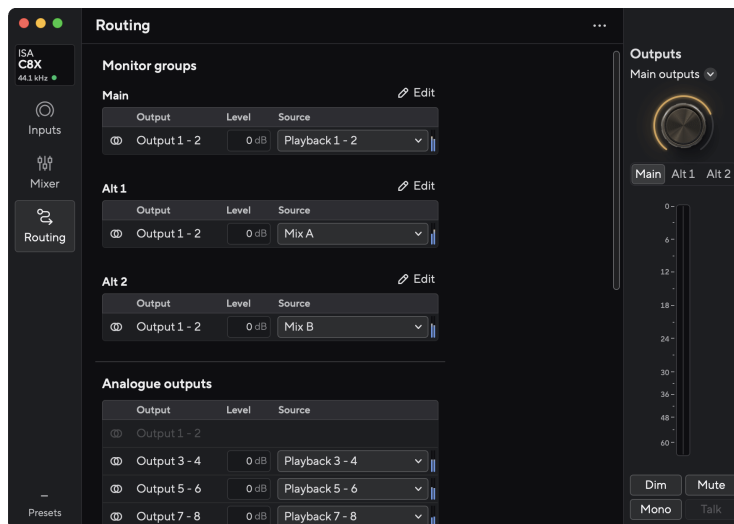


注記

ADAT や S/PDIF などのデジタル出力をモニターグループに割り当てることはできません。



上の図は、3つのモニターグループの使用例です。Mainに12系統の物理出力が割り当てられ、7.1.4のイマージブシステムとして12チャンネルの信号がソフトウェアから供給されます。Alt1は6系統の出力による5.1サラウンド、Alt2はステレオスピーカーで構成されています。DAWでソフトウェア再生チャンネルを設定することで、異なるリスニング・フォーマットに対応できます。



上図の例では、MainおよびAltボタンを使用して、同じ出力から異なるソースを切り替えて出力します。Mainはソフトウェアのステレオ出力、Alt1はMix A、Alt2はMix Bがソースに設定されています。各ボタンを押すことでスピーカーから異なるミックスを素早く切り替えて出力することが可能になります。例えば、ハードウェア入力を含むミックスを割り当てることで、ソフトウェア再生と同時に入力信号をダイレクトモニタリングすることがボタン一つで可能になります。

モニターグループを変更する

Main、Alt 1、Alt 2 ボタンを押すことで、モニターグループを変更できます。

選択中のモニターグループは、モニターグループボタンの点灯で確認できます。

すべてのモニターコントロール (Dim、Mute、Mono) は、選択中のモニターグループに含まれるすべての出力に適用されます。

ヘッドフォン出力

は、2つのヘッドフォン出力を備えます。いずれの出力も他のアナログ出力と完全に独立しており、個別のミックスをそれぞれ出力可能です。

ヘッドフォン出力部は 6.35mm (1/4 インチ) TRS ジャック用です。多くのヘッドフォン端子に採用されている 3.5mm TRS ジャックをに接続するには、TRS 6.35mm - 3.5mm 変換アダプターを使用してください。

ヘッドフォン出力レベルは、ヘッドフォン出力コネクタ上部のノブで調整できます。



ヘッドフォン出力ノブの周囲には、ハロメーターが搭載されています。時計回りに緑色～オレンジ色に点灯し、ヘッドフォン出力レベルを表示します。メーターはプリフェーダーで表示されるため、ヘッドフォン出力ノブはハロメーターに反映されません。

ヘッドフォン・レベルは、ヘッドフォン出力ノブまたは Focusrite Control 2 で変更できます。

ヘッドフォンコントロールの下には 2 つのミュート フロントパネルからヘッドフォン出力をすばやくミュートするためのボタン。



注記

一部のヘッドフォンおよび変換アダプターの中には、TR または TRRS コネクタを備えているものがあります (マイクやボリューム・コントロールがケーブルに組み込まれている製品など)。これらのヘッドフォンは Scarlett で正常に使用できない可能性があるため、問題が発生した場合は TRS 仕様のヘッドフォンおよび変換アダプターを使用してください。

リアパネルの各機能

本章では、のリア・パネルのすべての機能を紹介し、Focusrite Control 2 での操作方法についても解説します。

USB 接続

USB と記載されている USB タイプ C ポートは、Scarlett とコンピュータを接続するために使用します。

付属の USB-C ケーブルを使用して、コンピューターの USB-C ポートに接続します。USB-C to A ケーブルまたはアダプターを使用することも可能です。

S/PDIF 入出力

S/PDIF ポートは、ギター・アンプやマイク・プリアンプ、その他の S/PDIF 出力対応機器を接続するための 2 チャンネルのデジタル入出力を提供します。



注記

S/PDIF ポートはコアキシャル RCA です。75Ω ケーブルの使用をお勧めしますが、一般的な短めの RCA ケーブルでも動作します。

ISA C8X が正常に同期している場合、同期ステータス・インジケータが点灯します。外部機器からオーディオ信号を ISA C8X に送信している場合、S/PDIF チャンネル信号が入力チャンネル 11-12 に表示されます。



注記

ISA C8X をクワッドバンドのサンプルレート (176.4/192 kHz) で使用する場合、オプティカル入出力は無効になります。

ワードクロック入出力

C8X は、ワードクロックの入力および出力を備えます。

ワードクロック入出力は、ADAT または S/PDIF で接続された外部デジタル機器とクロック信号をやり取りするためのものです。接続する外部機器にクロック設定機能がない場合でも、ワードクロック入出力を備えていれば同期を取ることができます。

オプティカル接続

のリア・パネルにある Optical コネクタに外部デジタル機器を ADAT 接続すると、のチャンネル数を拡張することができます。



Optical 入力は、Focusrite Control 2 で設定することで ADAT フォーマット (マイクプリ、ライン・レベル I/O、テープ・マシンなどの ADAT 機器) またはオプティカル S/PDIF (ゲーム・コンソール、メディア・プレイヤー) の信号を受信できます。

は、2つのオプティカル・ポートを備えます。ADAT モードでは、1本または2本のケーブルで以下のフォーマットに対応します。

- ・ 1本のケーブル：
 - ・ 8チャンネル、シングルバンドのサンプルレート (44.1/48kHz)
 - ・ 4チャンネル、デュアルバンドのサンプルレート (88.2/96kHz)
- ・ 2本のケーブル：
 - ・ 16チャンネル、シングルバンドのサンプルレート (44.1/48kHz)
 - ・ 8チャンネル、デュアルバンドのサンプルレート (88.2/96kHz)

S/PDIF モードでは、Optical In 1 で 2チャンネルのオプティカル S/PDIF オーディオ信号を受信します。



注記

をクワッドバンドのサンプルレート (176.4/192 kHz) で使用する場合、オプティカル入出力は無効になります。

MIDI

リアパネルの MIDI 入出力ポートを使用すると、を USB MIDI インターフェースとして利用できます。MIDI IN は、キーボードや MIDI コントローラーからの MIDI 信号を受信します。MIDI OUT は、シンセサイザーやドラムマシン、その他の MIDI 対応機器などに対して MIDI 情報を送信します。



重要

ご購入後に初めて電源を投入すると、ISA C8X はイーゼースタート・モードで起動します。このモードでは MIDI 機能が無効に設定されています。MIDI 機能を有効にするには、Focusrite Control 2 をインストールして起動する必要があります。

ISA C8X を USB MIDI インターフェースとして使用するために特別な設定は必要ありません。ISA C8X の MIDI ポートが MIDI 対応ソフトウェア内に表示され、C8X の 5 ピン DIN MIDI ポートを介して MIDI ハードウェアとコンピューター間の MIDI 送受信が行えます。



注記

の MIDI Out ポートを MIDI Thru ポートとして使用することは **できません**。

入力

ISA C8X では、2種類のプリアンプを利用できます。1つはトランススペースの ISA チャンネル、もう1つはチャンネル 3~8 のプリアンプで、それぞれ対応する入力タイプが異なります。



リアパネルの XLR (マイク) 入力および 6.35mm ジャック (ラインレベル) 入力。

- ISA チャンネル :
 - 楽器入力 - フロントパネルに配置。
 - マイク入力 - リアパネルの XLR 入力。
 - ライン入力 - リアパネルの 6.35mm (1/4 インチ) ジャック入力。
 - インサート - リアパネルの Send / リターン用 6.35mm (1/4 インチ) ジャック入力。
- チャネル 3-8:
 - マイク入力 - リアパネルの XLR 入力。
 - ライン入力 - リアパネルの 6.35mm (1/4 インチ) ジャック入力。

入力 3~8

超低ノイズ入力チャンネル 3~8 は、マイクとラインレベルの入力タイプに対応し、いずれかを選択できます。

- マイクレベル入力は、XLR コネクタを使用します。
- ラインレベル入力は、6.35mm (1/4 インチ) ジャックを使用します。
ラインレベル入力は、TRS バランス入力です。

使用する入力は、フロントパネルの **Input [11]** ボタンで選択できます。XLR 入力と 6.35mm 入力にソース機器を接続したまま切り替えることが可能です。

ISA 入力

ISA 入力 (入力 1~2) は、入力タイプをマイク、ライン、楽器入力から選択できます。

ISA 入力は切り替え可能なインサートパスを備え、リアパネルの Send および Return 6.35mm ジャックを介してアウトボード機器とインサート接続できます。

- 楽器レベル入力は、フロントパネルの 2 つの 6.35mm (1/4 インチ) ジャックに接続します。
接続は、TS アンバランス入力に対応します。
- マイクレベル入力は、XLR コネクタを使用します。
- ラインレベル入力は、6.35mm (1/4 インチ) ジャックを使用します。
ラインレベル入力は、TRS バランス入力です。

使用する入力は、フロントパネルの **Input [11]** ボタンで選択できます。XLR 入力と 6.35mm 入力にソース機器を接続したまま切り替えることが可能です。

ISA チャンネル Send および Return (インサート)

ISA チャンネルは、**Send** および **Return** ソケットによるバランス・インサートポイントを入力毎に備えており、入力信号がコンバーターに到達する前段に外部プロセッサーやアウトボード機器 (EQ、コンプレッサー、ゲート、マルチエフェクト、アンプシミュレーターなど) をインサート接続できます。

ISA チャンネルで外部プロセッサーをインサート接続するには :

1. C8X の **Send** 出力を外部プロセッサの入力に接続します。
2. 外部プロセッサの出力を C8X の **Return** 入力に接続します。
3. **Insert** ボタンを押すと、インサート接続が有効になります。



Send から出力される信号は、インピーダンス設定、ハイパスフィルター、430 Air の後段、Console の前段の信号となります。Send 出力は、常にアクティブです。

Return に入力された信号を有効にするには、フロントパネル、または Focusrite Control 2 の **Insert** ボタンを押します。



アウトボードを使用する際のヒント

- ・チャンネルメーターを見ながら、Return 信号のレベルが Send 信号のレベルと同じになるように外部プロセッサの入出力レベルを調整してください。これによりオーバーロードを防ぐことができます。
- ・ディレイやリバーブなどの時間変化を扱うエフェクトも使用できますが、通常これらのエフェクトはパラレルプロセッシングで元の信号に追加して使用します。

ライン出力

ISA C8X のリアパネルは、6.35mm (1/4 インチ) TRS ジャックによるバランス・アナログライン出力を 12 系統備えます。出力 1 および 2 では、バランス XLR コネクターも利用できます。

これらの出力を利用して、スピーカー、アンプ、またはアウトボード機器にオーディオ信号を送信できます。

12 の出力を利用して、ステレオ、サラウンド、最大 7.1.4 のイマーシブスピーカー・システムに対応可能です。Focusrite Control 2 の柔軟なルーティングとモニターグループ機能を使用することで、3 つの異なるモニターグループを設定でき、モニターグループボタンで簡単に切り替えることができます。詳細は、[Monitor ノブとモニターグループについて \[28\]](#)をご参照ください。

ライン出力 1 および 2

出力 1 および 2 は、6.35mm (1/4 インチ) バランスジャックまたはバランス XLR 出力として使用できます。

その他の仕様は出力 3 ~ 12 と同じです。



注記

通常は、XLR 出力またはジャック出力のいずれか一方のみを使用してください。両方の出力を同時に使用することは推奨されません。

XLR 出力とジャック出力の両方をモニターに接続することは可能ですが、各出力に供給される電力が分割されるため、出力レベルが約 -3 ~ -6dB 低下します。

ライン出力 3~12

出力 3~12 は、6.35mm (1/4 インチ) TRS ジャックコネクタを備えます。

これらの出力は、DAW からミキサーやアウトボード機器へ信号を送信したり、追加のモニター出力として使用できます。

これらの出力をモニターに接続する場合は、Monitor ノブに割り当ててサラウンドやイマーシブシステムのレベル調整を行ったり、Alt モニターグループとして設定して複数の構成を使い分けることが可能です。詳細は、[Focusrite Control 2](#) で出力をグループに割り当てる [29]をご参照ください。

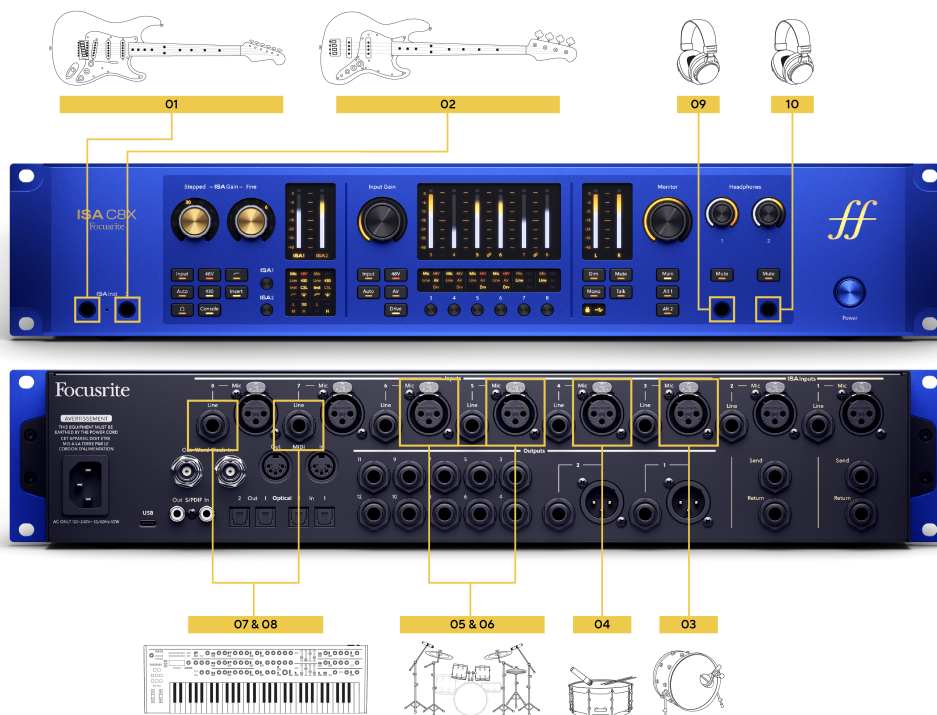
使用例

本章では、の一般的な使用例をいくつか紹介します。多くの場合、これらの使用例が実際に使用する際のセットアップや使い方のヒントとなるはずです。

入力の接続例

C8X は 8 つのアナログ入力を備え、マイクや楽器、ラインレベル機器を接続できます。

以下の図は、アナログ入力に様々なソースを接続する使用例です。



1. ギター - フロントパネルの 6.35mm (1/4 インチ) 楽器入力ジャックに接続します。
2. ベース - フロントパネルの 6.35mm (1/4 インチ) 楽器入力ジャックに接続します。
3. キックドラム用マイク - Mic 入力 3 に接続します。
4. スネアドラム用マイク - Mic 入力 4 に接続します。
5. オーバーヘッド用マイク (左) - Mic 入力 5 に接続します。
オーバーヘッド・マイクをステレオペアとして使用する場合は、プリアンプをリンクすることで左右のマイクを同じ設定で録音することができます。詳細は、[プリアンプをリンクする \[23\]](#)をご参照ください。
6. オーバーヘッド用マイク (右) - Mic 入力 6 に接続します。
7. キーボード/シンセサイザー (左) - Mic 入力 7 に接続します。
キーボードなどのステレオ音源を接続する場合は、左右チャンネルを同じ設定で扱えるようにプリアンプをリンクすることが推奨されます。詳細は、[プリアンプをリンクする \[23\]](#)をご参照ください。
8. キーボード/シンセサイザー (右) - Mic 入力 8 に接続します。
9. ヘッドフォン出力 1
10. ヘッドフォン出力 2



ヒント

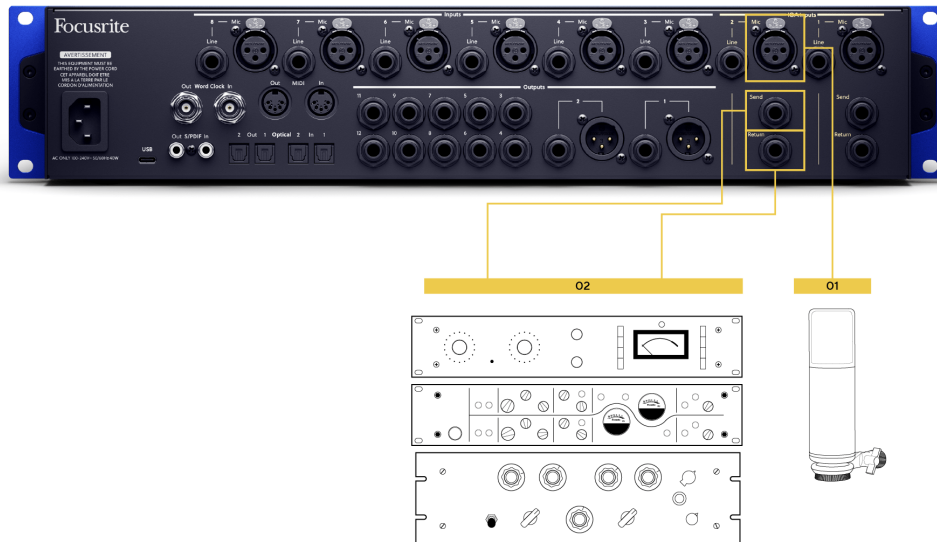
楽器入力は ISA プリアンプにのみ搭載されるため、上記の接続例ではチャンネル 1 と 2 にギターとベースを接続しています。

トランス回路で駆動する ISA プリアンプをボーカルやドラムのオーバーヘッドなど他の入力に接続する使い方もお勧めです。430 Air や Console モード、インピーダンス切り替え機能を活用し、ミックス内の重要なトラックを際立たせることができます。

この場合は、ギターやベースをマルチトラック録音、DI ボックスの使用、またはアンプ経由での録音方法を試すと良いでしょう。これにより、ISA 入力をマイク録音に使用できます。

ISA C8X でボーカルを録音する

C8X は、ボーカルの録音にも最適です。2 種類のプリアンプ (ISA プリアンプとチャンネル 3~8) で、異なるキャラクターを使い分けることができます。さらに、各プリアンプが備えるクリエイティブな機能を活用することで、透明で広がりのあるクリーンなボーカルから、ざらついた温かみのあるオーバードライブトーンまで、幅広い音作りが可能です。



1. Vocal 1 - ISA プリアンプ

ISA プリアンプは、最大 79dB の広大なゲインレンジに対応します。リードボーカルから繊細で静かな声、さらには高ゲインが必要なダイナミックマイクまで、幅広い用途に対応します。プリアンプで音を作り込み、そのまま録音することも可能です。

- ハイパスフィルター - 低域のノイズやハンドリング・ノイズを除去し、ミックス時にプラグインで処理する手間を軽減します。他の楽器と同時録音する場合も、ボーカルマイクに入り込む低域成分を抑えることができます。また、ボーカリストがマイクを手に持って歌う場合にも有効です。
 - 430 Air - 有効にすると、中高域～高音域を持ち上げ、ボーカルを際立たせたり、空気感を加えることができます。
 - インサート - ボーカルチェーンに外部機器をインサート接続できます。詳細は後述の項目をご参照ください。
 - インピーダンス - 4 種類のインピーダンス設定を切り替えることで、ボーカルの音色をすばやく調整できます。一般的に、低インピーダンス設定では温かみのあるビンテージ風サウンドになり、耳障りな成分を抑える効果があります。高インピーダンス設定では高域成分がより保たれ、抜けの良いボーカルとなります。
 - Console - Variable Console を使用すると、ボーカルに繊細なアナログ感 (温かみ) を加えることができます。
2. インサートチェーン - インサート接続 Send / Return を使用することで、コンプレッサーや EQ などのインサートエフェクトを追加できます。Insert ボタンを使ってエフェクトのオン / オフを切り替えながら、録音時に好みのサウンドを確認できます。

ISA C8X で多チャンネル録音を行う

C8X は、オプティカルデジタル入出力コネクタを各 2 系統備え、44.1kHz および 48kHz で最大 16 チャンネルの入出力を拡張できます。

以下の接続例では 2 系統の ADAT コネクタを活用し、ADAT 拡張機器や ADAT 対応オーディオ・インターフェースを使用して最大 24 チャンネルの同時録音を行う方法を示しています。

最初の例では、オプションの ISA ADN8 デジタルカードを搭載した 2 台の ISA 828 MkII を使用して、トランス駆動の ISA プリアンプを 16 基追加しています。これにより、18 基のトランス駆動 ISA プリアンプおよび ISA C8X の 6 基のプリアンプで合計 24 基のプリアンプを利用できます。



1. ADAT 接続 1 :
 - ADAT 機器 A のオプティカル出力 1 を C8X のオプティカル入力 1 に接続します。
2. ADAT 接続 2 :
 - ADAT 機器 B のオプティカル出力 1 を C8X のオプティカル入力 2 に接続します。
3. ISA ヘッドフォンセンド - 通常の C8X ヘッドフォンセンドと同様

次の接続例では、ADAT 拡張機器の代わりにオーディオ・インターフェース (以前使用していた機器など) を使用することで、ヘッドフォン出力を追加できます。ここでは Scarlett 18i20 (第 4 世代) インターフェースを使用していますが、ADAT 入出力を備えたインターフェースであれば使用可能です (入出力数は機種によって異なります)。使用する機器が ADAT 入力とヘッドフォン出力を備えている場合は、独立したヘッドフォンミックスを拡張し、セッションで利用できます。



1. ADAT 接続 1 :
 - ・ ADAT 機器 A のオプティカル出力 1 を C8X のオプティカル入力 1 に接続します。
 - ・ C8X のオプティカル出力 1 を ADAT 機器 B のオプティカル入力 1 に接続します。
2. ADAT 接続 2 :
 - ・ ADAT 機器 B のオプティカル出力 1 を C8X のオプティカル入力 1 に接続します。
 - ・ C8X のオプティカル出力 2 を ADAT 機器 B のオプティカル入力 1 に接続します。
3. ISA ヘッドフォンセンド - 通常の C8X ヘッドフォンセンドと同様
 双方向のオプティカル接続を使用することで、Focusrite Control 2 で追加のヘッドフォンミックスを作成し、それらのミックスを C8X から ADAT 機器側のヘッドフォン出力ルーティングでできます。このセットアップでは、最大 6 系統の独立したヘッドフォンミックスを利用できます。
4. ADAT ヘッドフォンセンド 1 および 2 - C8X の ADAT 出力から送信され、ADAT 機器のヘッドフォン出力にルーティングされるミックス。
5. ADAT ヘッドフォン出力 3 および 4 - C8X の ADAT 出力から送信され、ADAT 機器のヘッドフォン出力にルーティングされるミックス。



クロック

デジタル機器を接続する場合は、すべての機器がデジタル同期されている必要があります。機器が同期されていないと、音が出なかったり、グリッチや歪みが生じる恐れがあります。

最初の接続例では、ワードクロック・ケーブルを用いて同期するのが最も簡単です。C8X と ISA ADN カードは、内部クロックを同期するためのワードクロック入出力を備えます。

2 番目の接続例の場合は、Focusrite Control 2 で ISA C8X を内部クロックに、2 台の Scarlett 18i20 を ADAT クロックに設定するのが最も簡単な方法です。

詳細は、[クロックソース \[61\]](#)をご参照ください。

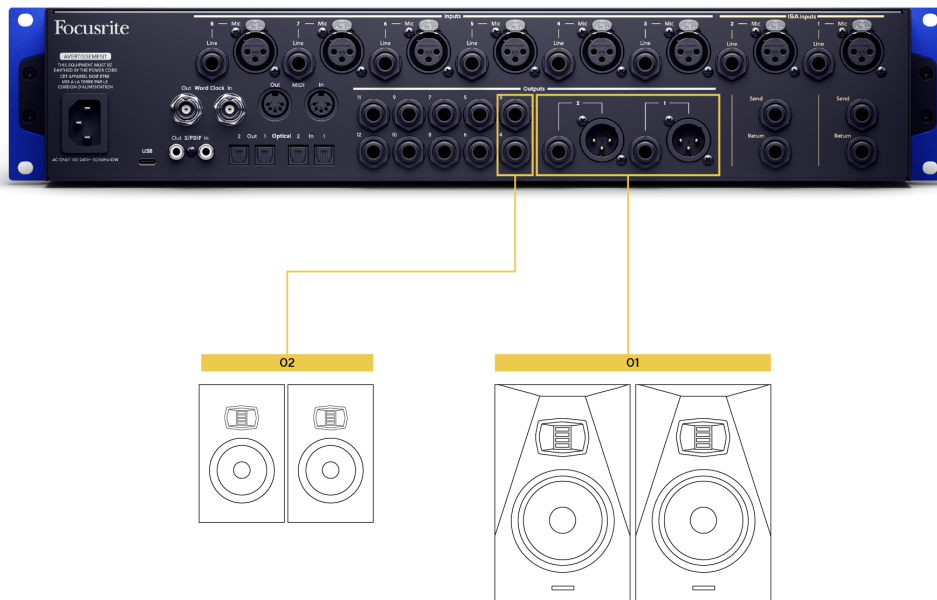
出力の接続例

ISAC8X は、12 の出力と 3 つのカスタマイズ可能なモニターグループ機能を備えます。これらを柔軟に組み合わせることで、ステレオから 7.1.4 イマーシブまで、幅広いモニターフォーマットを利用できます。

本マニュアルでは、以下の 3 つの一般的なモニタリング・フォーマットの使用方法について解説します。いずれのフォーマットも、Focusrite Control 2 のルーティングページでモニターグループを設定し、モニターグループボタンで簡単に切り替えることができます。

- ステレオ (Alt ボタンを併用)
- 7.1 サラウンド
- 7.1.4 イマーシブ

ステレオモニターをセットアップする



1. 出力 1 および 2 - メインモニターのペアを **Main** モニターグループに割り当てます。
2. 出力 3 および 4 - ミックス確認用の別のモニターのペアを **Alt 1** モニターグループに割り当てます。



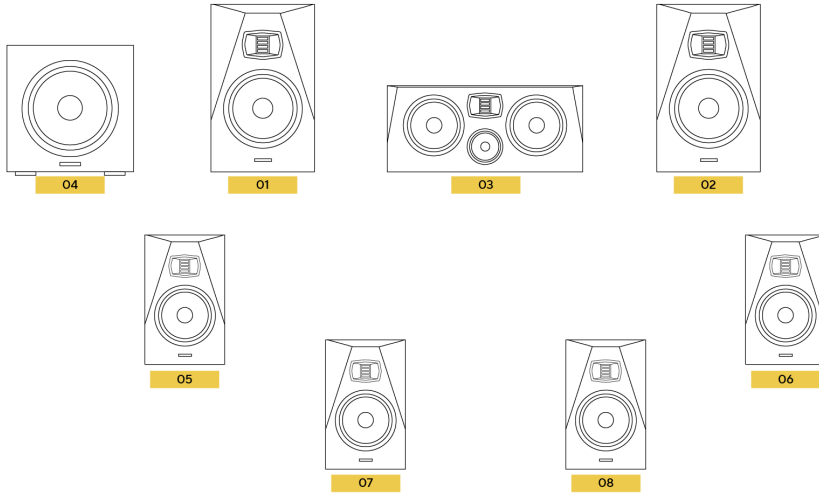
ヒント

2 組のモニターを使用する場合、C8X では残り 8 つの出力を利用できます。例えば、エフェクトのセンドやアウトボードに接続したり、ヘッドフォンアンプに接続することができます。

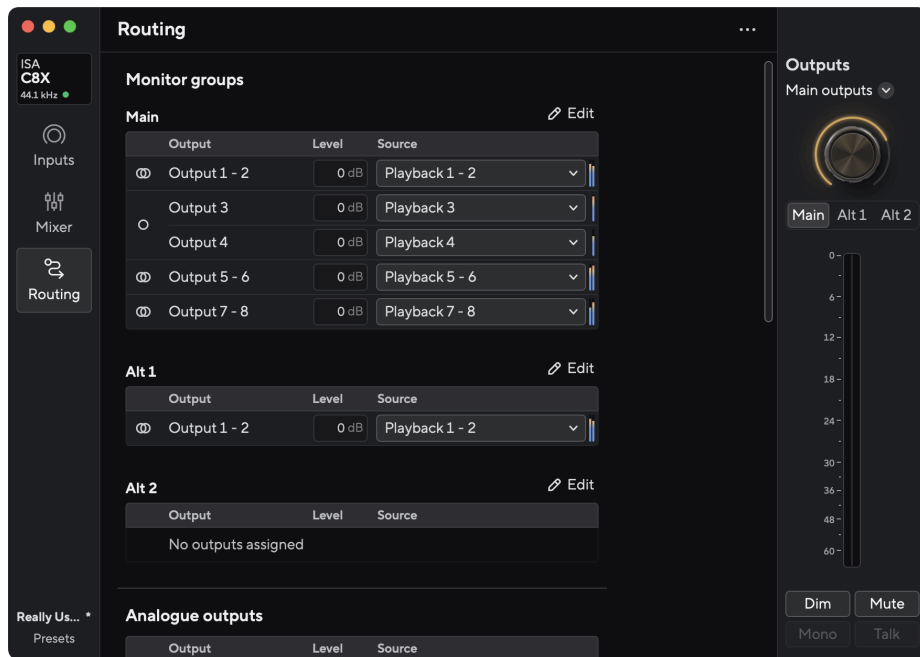
Focusrite Control 2 を使用してこれらの出力にカスタムミックスや再生チャンネルを割り当て、独立したヘッドフォンミックスを追加することも可能です。

サラウンドモニターをセットアップする

下の接続例は、7.1 サラウンドシステムおよび対応する Focusrite Control 2 のルーティングページを示しています。



スピーカー接続



Focusrite Control 2 のルーティングページ

7.1 サラウンドシステムのチャンネル構成：

1. 左 (フロント)
2. 右 (フロント)
3. センタースピーカー (モノ)
4. LFE (モノ)

5. 左サラウンド
6. 右サラウンド
7. 左リアサラウンド
8. 右リアサラウンド

上の Focusrite Control 2 画面では、出力 3 および 4 はステレオペアではないため(センタースピーカーと LFE スピーカー)、モノラルに設定されています。

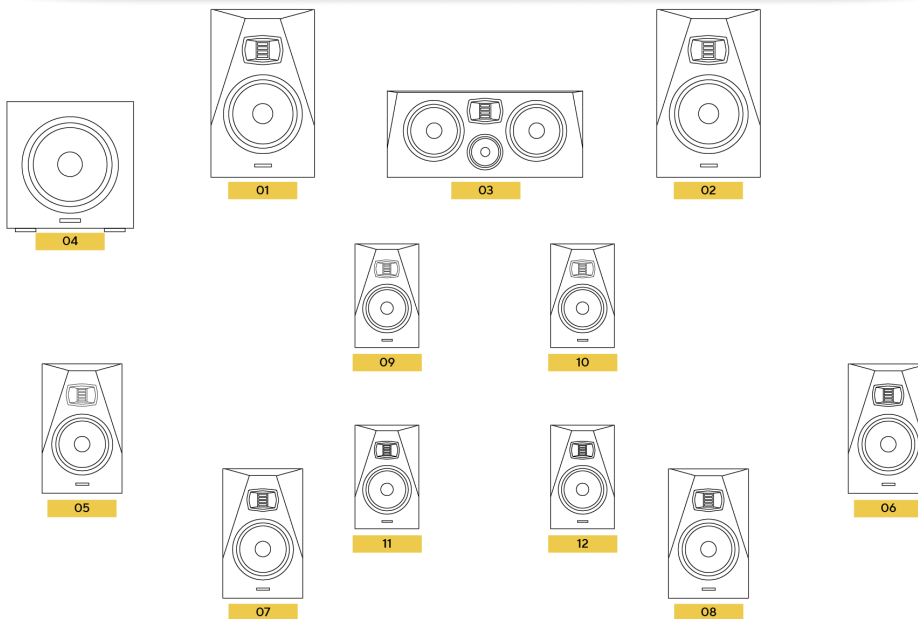


重要

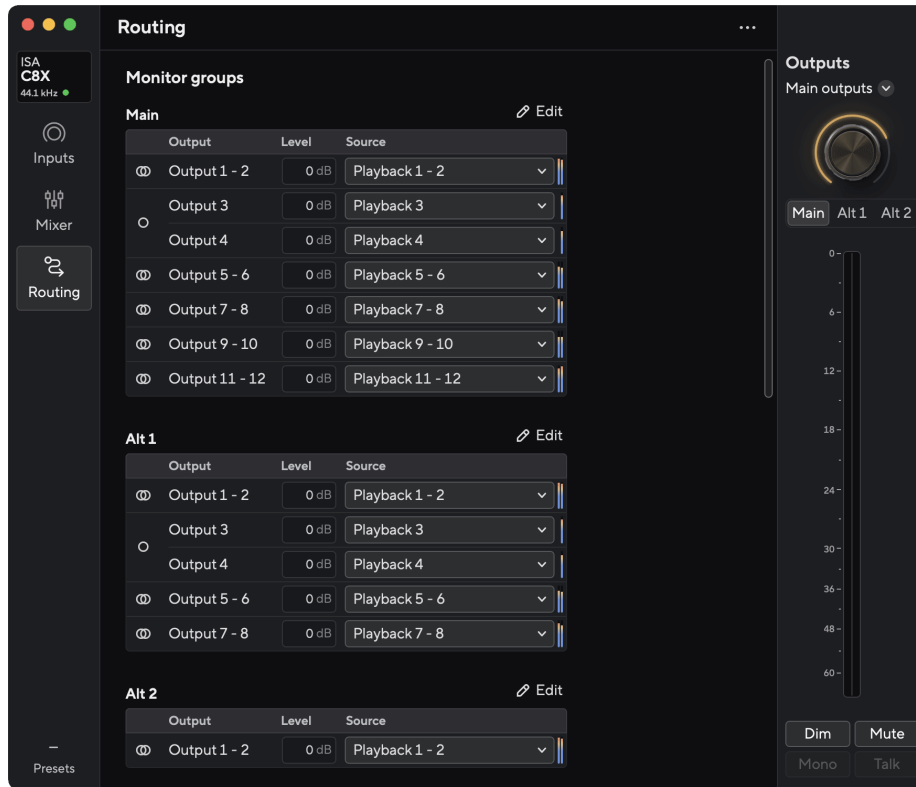
サラウンドスピーカーのセットアップは、スピーカーや Focusrite Control 2 の設定だけでなく、使用するソフトウェアがサラウンドに対応し、適切に設定されている必要があります。多くの DAW には、サラウンド用の設定ページが用意されています。

イマーシブモニターをセットアップする

一般的なイマーシブミキシングでは、5.1.2、5.1.4、7.1.2、7.1.4 などのスピーカー構成が使用されます。下の接続例では、7.1.4 システムおよび対応する Focusrite Control 2 のルーティング設定を示しています。お使いのシステムに応じて下図を参照し、チャンネル数を変更して設定してください。



スピーカー接続



Focusrite Control 2 のルーティングページ

7.1 サラウンドシステムのチャンネル構成：

1. 左 (フロント)
2. 右 (フロント)
3. センタースピーカー
4. LFE
5. 左サラウンド
6. 右サラウンド
7. 左リアサラウンド
8. 右リアサラウンド
9. 左トップフロント
10. 右トップフロント
11. 左トップリア
12. 右トップリア

上の Focusrite Control 2 の画面では、Alt 1 および Alt 2 のモニターグループも設定されており、Alt 1 は 7.1 サラウンドシステムのすべてのチャンネル、Alt 2 はステレオモニターに割り当てられています。

このようにモニターグループを設定することで、以下の使い方が可能になります：

- **Main** ボタンを押すと、7.1.4 のイマーシブミックスが出力されます。
- **Alt 1** ボタンを押すと、ミックスが 7.1 サラウンドフォーマットで出力されます。
- **Alt 2** ボタンを押すと、ミックスがステレオ出力されます。Alt 2 モニターグループを使用中に **Mono** ボタンを押すことで、ミックスをモノラルで確認できます。

Focusrite Control 2 をで使用する

Focusrite Control 2 は、インターフェースを管理するためのソフトウェアです。ルーティング、モニタリング、ミキサーなど様々な設定が行えるほか、ファームウェア・アップデートなども実行できます。



macOS でインターフェースを切り替え

macOS で C8X を使用する場合は、複数のインターフェースを接続して Focusrite Control 2 画面左上のタブから切り替えることができます。

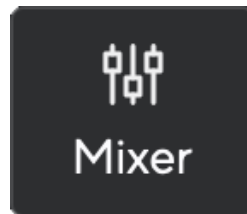


複数のインターフェースを素早く切り替えることができる便利な機能ですが、機器セット機能はサポートしていません。

Focusrite Control 2 のミキサー・タブを使用する

は、Focusrite Control 2 の Mixer ページで操作可能なミキサー機能を備えます。

ルーティング・タブを使用することで、複数の入力ソースをの物理出力に送信できます。 [53] [53]



利用可能な入力ソース：

- 物理入力
 - アナログ入力 (インストゥルメント、マイクまたはライン入力)
 - デジタル入力 (ADAT または S/PDIF)
- 再生入力
 - DAW ソフトウェアからの出力チャンネル
 - その他のソフトウェアからの再生チャンネル



入力ソースを組み合わせて作成したミックスは、スピーカー用のミックスや演奏者用のヘッドホンミックスなどとして、C8X の出力に送信できます。

ミックス

Focusrite Control 2 の Mixer ページ上部のタブにて、Mix A、Mix B など複数のミックスの表示を切り替えることができます。



各ミックスでは入力ソースの組み合わせを個別に調整でき、必要に応じて別々の出力に送信できます。例えば Mix A をスピーカー出力用ミックス、Mix B をシンガー用のヘッドフォンミックスとして使用することができます。シンガーが自分の歌声のみをより大きなレベルで聴きたい場合は、Mix B のボーカルチャンネルのレベルだけを上げることでこれを実現できます。



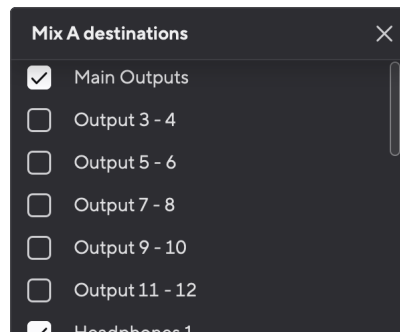
ヒント

Focusrite Control 2 では、一度に複数のミックスを扱うことができます。

各ミックスは、個別に動作します。たとえば、Mix A をスピーカーに、Mix B をヘッドフォンにそれぞれ個別に送信することが可能です。ただし、各出力では一度に 1 つのミックスのみを割り当てることができます。使用中の出力に新たにミックスを割り当てた場合、それまで割り当てられていたミックスはその出力に送信されなくなります。

各 Mix タブをクリックすると、目的のミックスを選択できます。選択したミックスは、任意の出力にルーティングできます。手順は以下の通りです：

1. 既存の出力、または **接続先** → **右の鉛筆アイコン**
2. ミックスを出力したい **接続先** に **チェック** を入れます。



例えば、スピーカーが接続されている Outputs 1-2 とヘッドフォン出力の両方に Mix A を割り当てると、ヘッドフォンとスピーカーで同じミックスを聴くことができます。

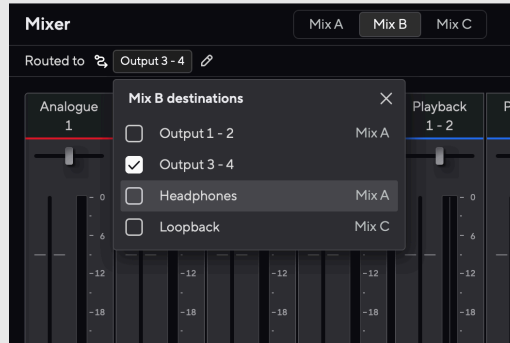
- 3.

ミキサーチャンネル上部にて、ミックスがどの出力にルーティングされているかを確認できます。ミックスの出力先が設定されていない場合、**No outputs assigned** と表示されます。



**注記**

各出力に割り当てることができるミックスは、1つのみです。例えば、ヘッドフォン出力に Mix A と Mix B を同時に割り当てることはできません。送信先に既に別のミックスが割り当てられている場合、ミックス接続先ポップアップに割り当て済みのミックス名が表示されます。既にミックスが割り当てられている接続先に新たにミックスを割り当てると、新しい接続先が上書きされて設定されます。

**注記**

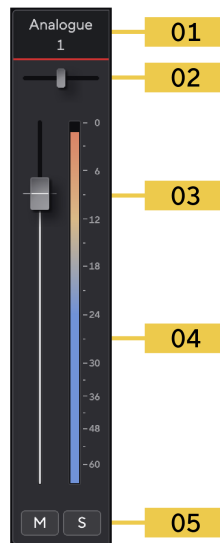
Focusrite Control 2 のルーティング・タブにて、各ミックスの出力先の変更も行えます。詳細は、[Focusrite Control 2 のルーティング・タブを使用する \[53\]](#)をご参照ください。



ループバックの送信先

作成した任意のミックスを録音したい場合は、**Loopback** を送信先として選択します。詳細は[ループバック機能の使用](#)をご参照ください。

ミキサーチャンネルを使用する

各ミキサーチャンネルでは、様々な設定が行えます。



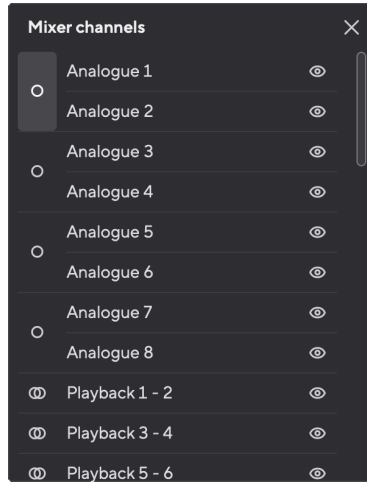
1. **ミックス・チャンネル名**
ミキサー入力名が表示されます。
2. **パン**
モノラルチャンネルの定位をステレオイメージ内で左右に調整します。またはステレオチャンネルの左右バランスを調整します。デフォルトでは中心に設定されています。Alt、option へキーを押しながらクリックするか、ダブルクリックでリセットできます。
3. **フェーダー**
送信先に送られる信号レベルを調整します。Alt、option へキーを押しながらクリックするか、ダブルクリックでリセットできます。
フェーダーは、録音されるソースの信号レベルには影響しません。
4. **メーター**
チャンネルレベルを dBFS 単位で表示します。青はレベルが良好、オレンジ色はレベルが非常に高いことを示します。
ステレオチャンネルでは 2 つのメーターが表示され、左右チャンネルのレベルを確認できます。メーターは、ポストフェーダーのレベルを表示します。つまりフェーダーの値がメーター表示に影響します。
5. **ミュートおよびソロ**
ミュート - ミュート・ボタン 
ソロ - ソロ・ボタン 
ミュートとソロを同時に有効にすると、最後にクリックされたボタンが優先的に有効になります。

ミキサーチャンネルをステレオまたはモノラルに設定する

ミキサー・タブでは、ソースをステレオまたはモノラルから選択できます。

ステレオに設定すると、対応する各チャンネルがペアとなり、パンが自動的に左右に振られます。

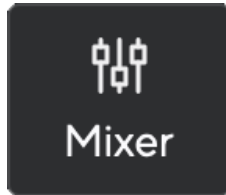
デフォルトでは、ミキサーのハードウェア入力および ADAT 入力はすべてモノラル、ソフトウェア再生チャンネルおよび S/PDIF 入力はステレオに設定されています。




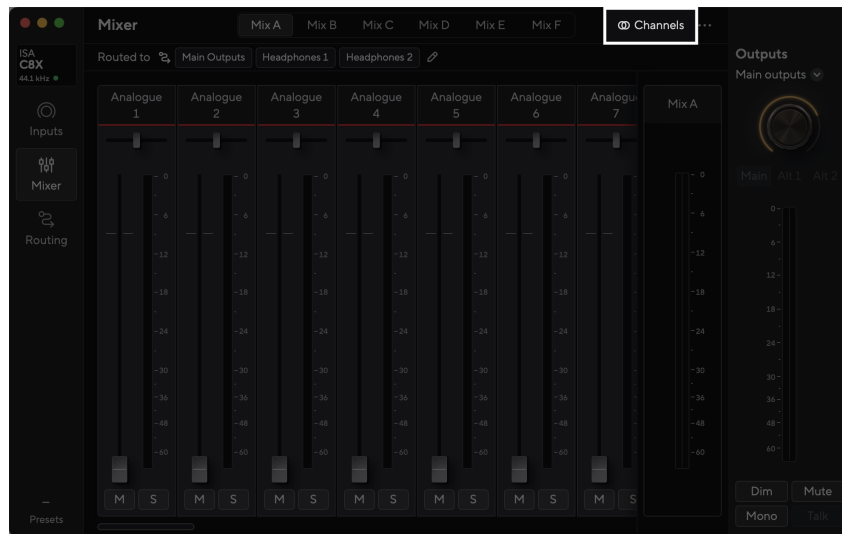
ミキサーチャンネル設定

Focusrite Control 2 のミキサー・タブでソースをステレオからモノに変更するには：

1. ミキサー・タブを開きます。



2. 画面右上の Channels ボタン  をクリックします。



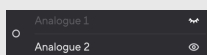
3. チャンネル名左のモノ / ステレオボタンをクリックします。





ヒント

チャンネル名の右側にある目玉のアイコンをクリックすることで、ミキサーチャンネルの表示 / 非表示を切り替えられます。



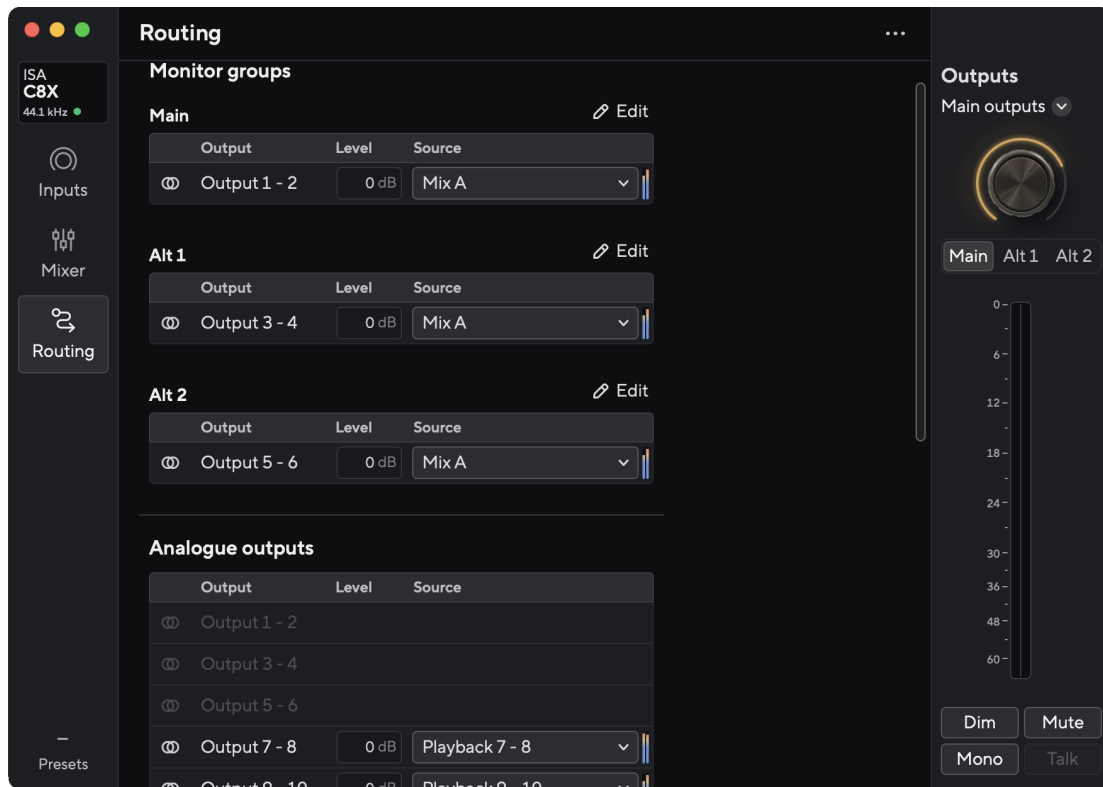
非表示に設定したチャンネルは、すべてのミックスで表示されなくなります。

Focusrite Control 2 のルーティング・タブを使用する

Focusrite Control 2 のルーティング・タブでは、の出力に送信する入力信号とミックスのルーティングを設定できます。

ルーティング・タブを開くと、**Sources** および **Outputs** のリストが表示されます。

- **Output** リストには、ISA の各出力が表示されています。Analog Output にはアナログ出力 (ライン出力、ヘッドフォン出力) が、Digital Outputs にはデジタル出力 (
- そのレベルコントロールはアナログ出力専用です。これにより、出力レベルを一定 dB レベルだけトリム (低減) できます。例えば、スピーカーのレベルを合わせたり、外部機器のクリッピングを防いだりすることができます。
- **Source** リストでは、各出力に送信するソース信号を選択できます。本体の入力や DAW (ソフトウェア) 再生チャンネルのほか、それらを組み合わせたミックスもソース信号として選択できます。ミックスは Focusrite Control 2 で作成できます。詳細は、[Focusrite Control 2 のミキサー・タブを使用する \[46\]](#)をご参照ください。



Focusrite Control 2 のルーティング・タブ

ソースを出力に割り当てるには、Output リストから目的の出力を探し、Source ドロップダウン・メニューをクリックします。割り当てたいソースをクリックすると、選択したソースが該当する出力に送信されます。右側のメーターは、送信中の信号レベルを表示します。

各出力に割り当てることができるミックスは、1つのみです。例えば、ヘッドフォン出力に Mix A と Mix B を同時に割り当ててすることはできません。送信先に既に別のミックスが割り当てられている場合、ミックス接続先ポップアップに割り当て済みのミックス名が表示されます。既にミックスが割り当てられている接続先に新たにミックスを割り当てると、新しい接続先が上書きされて設定されます。

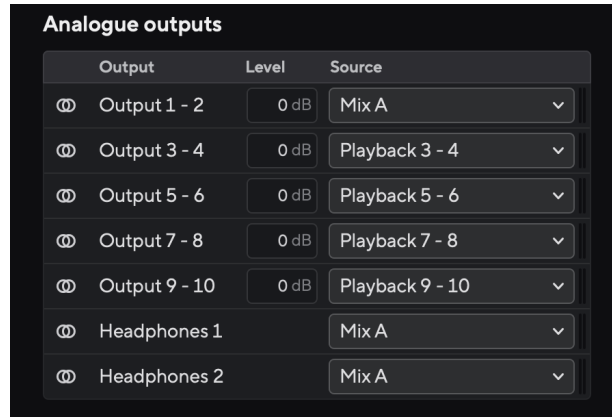
ループバック

作成した任意のミックスを録音したい場合は、**Loopback** を送信先として選択します。詳細は[ループバック機能の使用](#)をご参照ください。

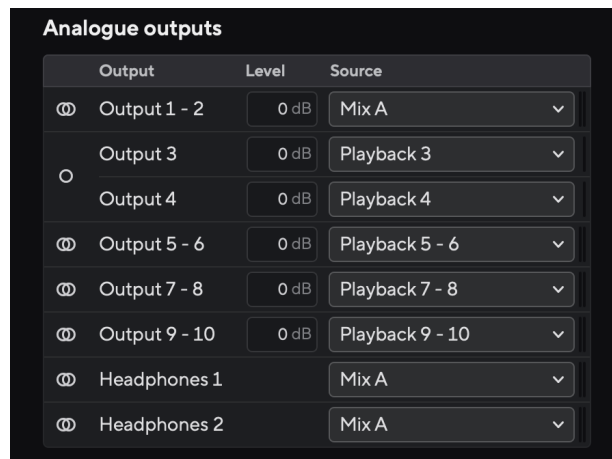
Focusrite Control 2 で出力をモノラルに変更する

ルーティング・タブでは、ステレオ出力を2つのモノラル出力に分割し、完全に別の出力先としてソースを個別に割り当てられます。モノラル信号をアウトボード機器に送信したり、ミックスの確認にモノラル・スピーカーを使用したい場合などに便利な機能です。

ステレオ出力を2つのモノラル・チャンネルに分割するには、出力リストの各ステレオ・ペアの左にあるステレオ・アイコンをクリックします。



単一のステレオ出力が2つのモノラル出力に拡張され、各出力で Source ドロップダウン・メニューを個別に選択できるようになります。

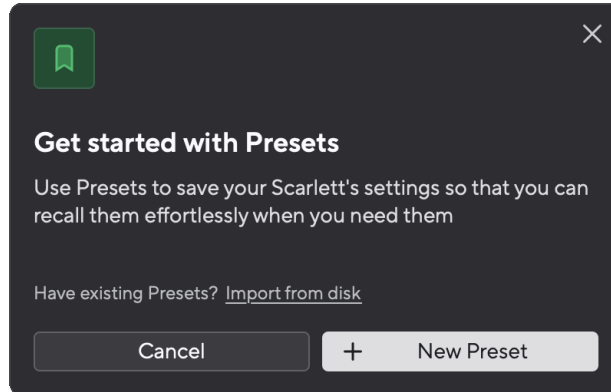


左のモノラル・アイコンをクリックすると、2つのモノラル出力がステレオ出力に復帰します。



プリセットの使用 Focusrite Control 2

プリセットを使用すると、ISA の設定をすばやく復元できます。特定のセッションやセットアップに合わせて設定を変更し、名前付きプリセットとして保存できます。次回これらの設定を呼び出す必要がある場合は、プリセットをロードできます。



プリセットには、以下の設定が含まれます：

- 各チャンネルの入力設定：
 - チャンネル名
 - Input Gain
 - +48V
 - Inst
 - Air モード
 - Console
 - ハイパスフィルター
 - Insert
- ミキサー設定
 - ミックスの接続先 (→)
 - パンおよびバランス
 - フェーダー・レベル
 - ミュートおよびソロのステータス
 - ミキサーチャンネルのリンク。
- ルーティング：
 - ミックスソース
 - 出力レベル
 - グループを監視します。



注記

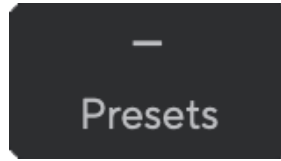
Focusrite Control 2 のプリセットは、保存時に使用しているコンピュータに保存されます。保存したプリセットは、別のコンピュータやスタンドアローン・モードで使用することもできます。

プリセットの保存

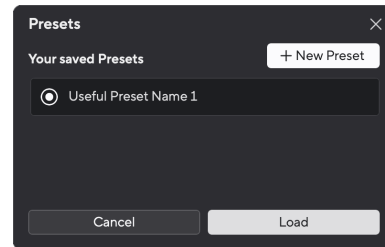
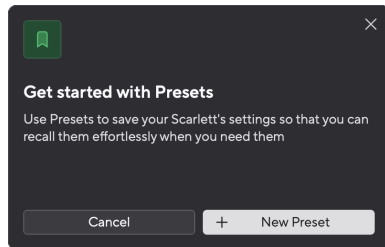
Focusrite Control 2 でプリセットを使用するには、まず設定を変更します。設定の変更が完了し、後日再び利用したい設定がある場合は、プリセットを保存します。プリセットの保存には、新しいプリセットを保存するか、既存のプリセットを上書きするかの 2 つの方法があります。

新しいプリセットの保存

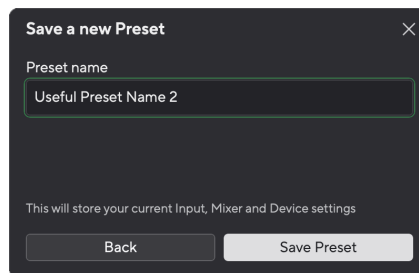
1. の設定を Focusrite Control 2 で調整します。
2. Focusrite Control 2 ウィンドウ左下のプリセット・ボタンをクリックします。



3. 「新しいプリセット」ボタンをクリックします。

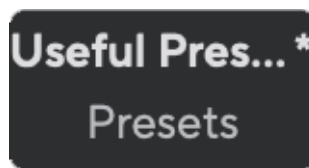


4. 「Preset 名」フィールドにプリセットの名前を入力します。あとで探しやすい名前を付けることをお勧めします。



5. 「Preset を保存する」をクリックします。

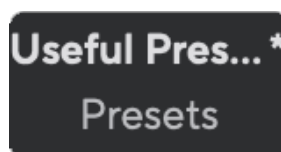
プリセットを保存すると、プリセットの名前が Focusrite Control 2 の左下に表示されます。そのプリセット内で設定を変更すると、プリセット名にアスタリスク*が表示され、設定が変更された事を示します。




プリセット名にアスタリスク*が表示されている場合は、プリセットの設定のいずれかが変更されたことを示します。上述の手順を使用して新しいプリセットを作成するか、変更されたプリセットを上書きすることができます。

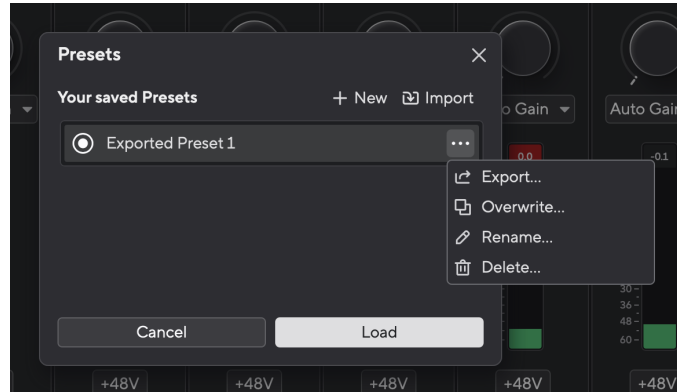
プリセットを上書きする

1. 既存のプリセットから設定を変更すると、プリセット名の横にアスタリスク*が表示されます。
2. Focusrite Control 2 ウィンドウ左下のプリセット・ボタンをクリックします。



3. 既存のプリセットにマウスを合わせ、プリセット名の右にある 3 つのドット 

4. 「上書き」をクリックします。



5. 表示されるポップアップを確認し「上書き」ボタンをクリックすると、既存のプリセットが上書きされます。



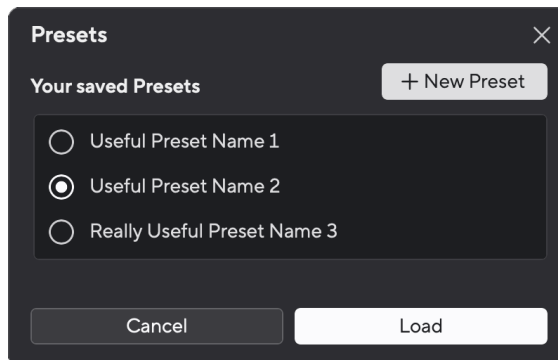
注意

プリセットを上書きすると、保存されていたプリセットの設定が現在の設定に置き換えられます。この操作は取り消しできません。

プリセットの読み込み

プリセットを読み込むと、一連の設定を以前保存した状態に復元することができます。


1. Focusrite Control 2 ウィンドウ左下のプリセット・ボタンをクリックします。
2. 読み込みたいプリセットをクリックします。



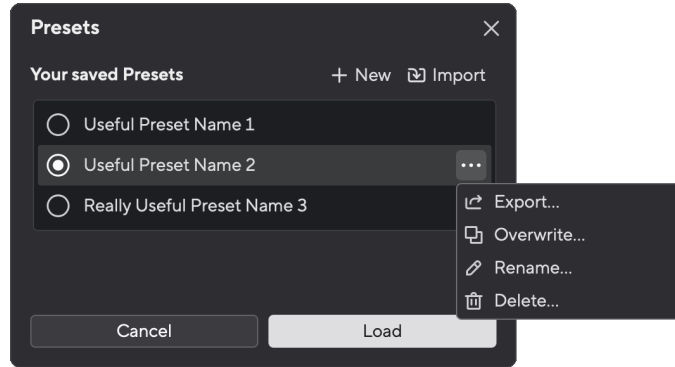
3. 「読み込む」ボタンをクリックします。

プリセット名の変更

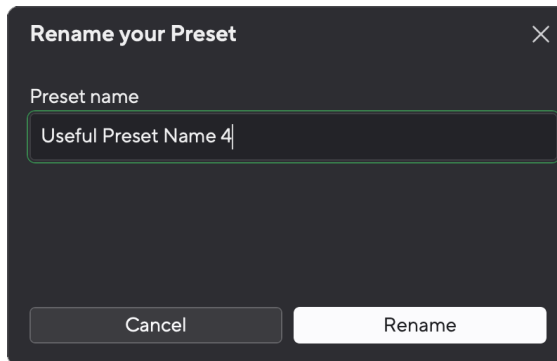
保存された設定を変更せずにプリセット名を変更できる機能です。

1. Focusrite Control 2 ウィンドウ左下のプリセット・ボタンをクリックします。
2. 既存のプリセットにマウスを合わせ、プリセット名の右にある3つのドット 

3. 「名前を変更する」をクリックします。



4. 新しいプリセット名を Preset 名フィールドに入力します。




5. 「名前を変更する」を選択します。

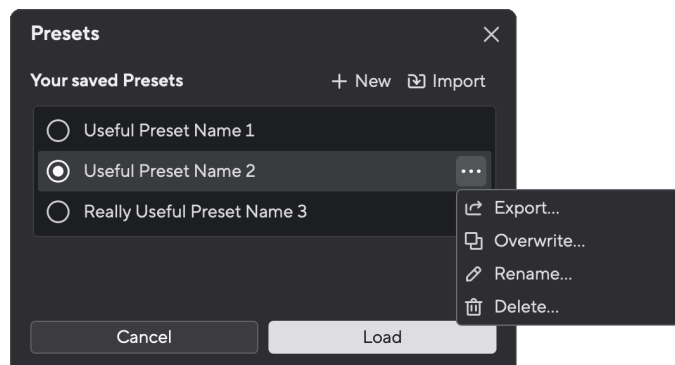
プリセットの削除



注意

Focusrite Control 2 で削除したプリセットを復元することはできず、削除の操作をアンドウすることもできません。プリセットを削除しても、インターフェイスの設定は変更されません。

1. Focusrite Control 2 ウィンドウ左下のプリセット・ボタンをクリックします。
2. 既存のプリセットにマウスを合わせ、プリセット名の右にある 3 つのドット 
3. 「削除」をクリックします。



4. 表示されるポップアップを確認し「削除」ボタンをクリックすると、既存のプリセットが削除されます。

プリセットのエクスポートとインポート

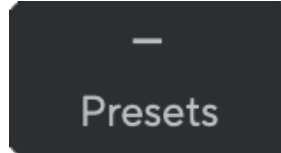
Focusrite Control 2 で作成したプリセットは、アプリケーション内に保存されるほか、コンピューターにエクスポートすることもできます。プリセットをエクスポートすることで、バックアップとして保存し


たり、別のコンピュータで同じ設定を再現したり、他のアーティストやスタジオでのセッションに持ち出すことが可能になります。

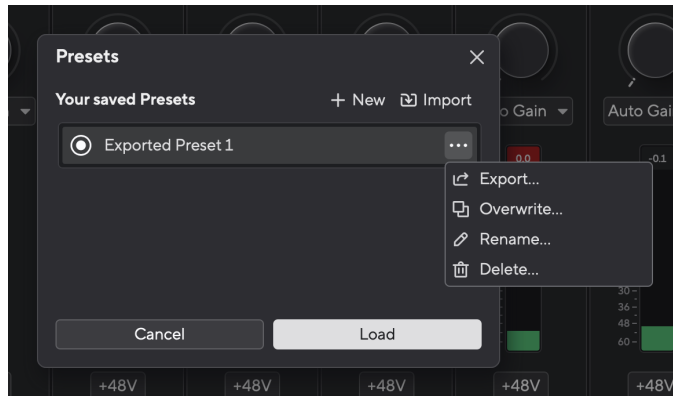
Focusrite Control 2 でプリセットを一度保存すると ([プリセットの保存 \[55\]](#)参照)、コンピュータにエクスポートが可能になります。

Focusrite Control 2 プリセットをエクスポートするには :

1. Focusrite Control 2 ウィンドウ左下のプリセット・ボタンをクリックします。



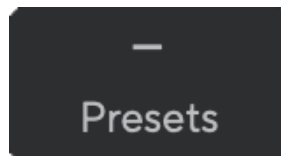
2. 既存のプリセットにマウスを合わせ、プリセット名の右にある 3 つのドット 
3. エクスポートをクリックします。



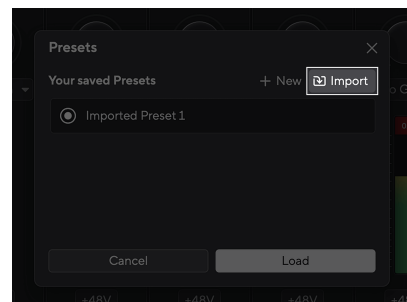
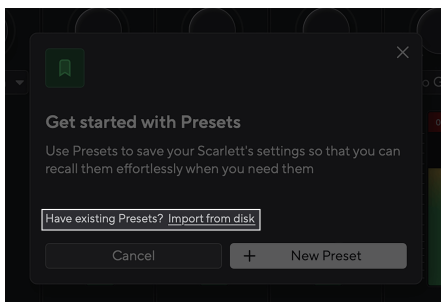
4. プリセットを保存する場所を選択します。
デフォルトでは、Focusrite Control 2 というフォルダに保存されます。別のフォルダに保存することもできます。

Focusrite Control 2 でプリセットをインポートするには :

1. Focusrite Control 2 ウィンドウ左下のプリセット・ボタンをクリックします。




2. 「ローカルディスクからインポート」をクリックするか、プリセットからインポートする場合は「インポート」をクリックします。

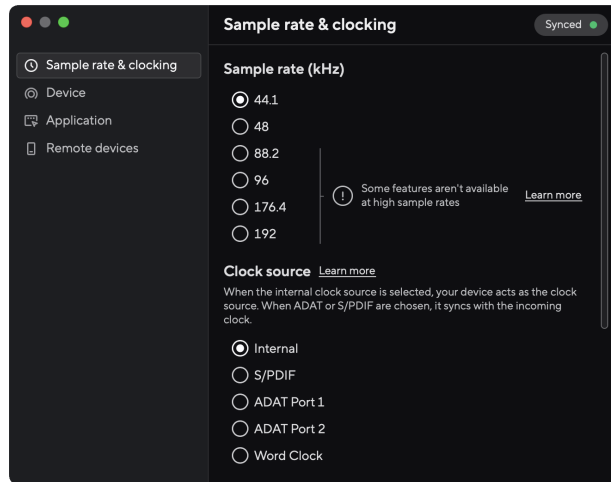


3. インポートしたいプリセットファイルを特定します。

4. ファイルブラウザでプリセットを選択し、「開く」をクリックします。複数のプリセットを選択してインポートすることも可能です。

Focusrite Control 2 初期設定

Focusrite Control 2 ウィンドウ右上のリーダー・アイコン 



初期設定ページでは、以下のタブで各設定が分類されています。

- Sample rate
- デバイス
- アプリケーション
- リモートデバイス

Sample rate & clocking タブ

サンプルレート (kHz)

サンプルレートとは、コンピュータが 1 秒間に録音を行うサンプル数のことです。サンプルレートが高いほど高音質になりますが、それに伴い録音データのサイズが大きくなり、より多くのハードディスク容量が必要となります。



注記

以下の機能は、クワッドバンド (サンプルレート 176.4kHz および 192kHz) では使用できません。

- Air Presence & Drive (Air Presence は利用可能)
- ミックスソース
- コアキシャル S/PDIF
- オプティカル S/PDIF
- ADAT チャンネル

クロックソース

ここでは、お使いのセットアップで ISA を同期する方法を設定します。通常は内部クロックを使用しますが、他の機器を ISA の ADAT または S/PDIF 入力に接続している場合は、クロック・ソースを変更することができます。詳細は、[Scarlett で ADAT と S/PDIF を使用する方法と同期ステータス](#)をご参照ください。

以下のクロックソースを使用できます。

- 内部
- S/PDIF
- ADAT

- ADAT ポート 2
- ワードクロック

デジタルポートモードを設定する

C8X のデジタルポートに関する設定を行います。

チャンネルの順序や、同時に使用できるチャンネルの詳細については、[製品仕様 \[66\]](#)をご参照ください。

ISA のオプティカル・ポートは、ADAT または S/PDIF 信号のいずれかを受信するように設定できます。

以下の 2 つのモードを選択できます。

- **RCA (コアキシャル) S/PDIF モード - コアキシャル S/PDIF 機器と Scarlett のコアキシャル・ポートを接続するには、このオプションを使用します。**
 - シングルバンドのサンプルレートでは、コアキシャル S/PDIF を使用しながら、オプティカル In/Out 1 で 8 チャンネルの ADAT 信号を送受信できます。
 - デュアルバンドのサンプルレートでは、コアキシャル S/PDIF を使用しながら、オプティカル In/Out 1 で 4 チャンネルの ADAT 信号を送受信できます。オプティカル入力 2 は無効となります。
 - クワッドバンドのサンプルレートでは、オプティカル・ポートが無効となります。コアキシャル S/PDIF 入力も無効となります。
- **オプティカル S/PDIF モード - オプティカル In/Out 2 をオプティカル S/PDIF ポートとして使用します。**
 - シングルバンドのサンプルレートでは、オプティカル In/Out 2 をオプティカル S/PDIF として使用しながら、オプティカル In/Out 1 で 8 チャンネルの ADAT 信号を送受信できます。
 - デュアルバンドのサンプルレートでは、オプティカル In/Out 2 をオプティカル S/PDIF として使用しながら、オプティカル In/Out 1 で 4 チャンネルの ADAT 信号を送受信できます。
 - クワッドバンドのサンプルレートでは、オプティカル・ポートが無効となります。コアキシャル S/PDIF 入力も無効となります。

ADAT モード

デュアルバンド・サンプルレート (88.2kHz および 96kHz) の ADAT モードでは、オプティカル In/Out 2 で ADAT チャンネルを送受信できます。

シングルバンドのサンプルレート (44.1kHz と 48kHz) では、ISA C8X 各ポートで 8 チャンネル、合計 16 チャンネルの ADAT を受信できます。デュアルバンドサンプルレート (88.2kHz および 96kHz) では、デュアル ADAT モードでは各ポートで 4 チャンネル、合計 8 チャンネルの ADAT を受信できます。

デュアル ADAT モードでは、両方の S/PDIF オプション (同軸および光 S/PDIF) が無効になります。



注記

シングルバンドまたはクワッドバンドのサンプルレートでは、この設定はオプティカル・ポートには影響しません。

クワッドバンドのサンプルレートでは、オプティカル・ポートが無効となります。

デバイス・タブ

インターフェースモード

コンピューターに接続するメインのオーディオ・インターフェースとして使用するか、または別のインターフェースの ADAT 拡張デバイスとして使用するかを素早く変更できる機能です。

ADAT 拡張モードは、C8X を別の Focusrite インターフェースまたは他メーカーのインターフェースが ADAT 入力を備える場合に利用でき、ADAT 経由でチャンネル数を拡張できます。

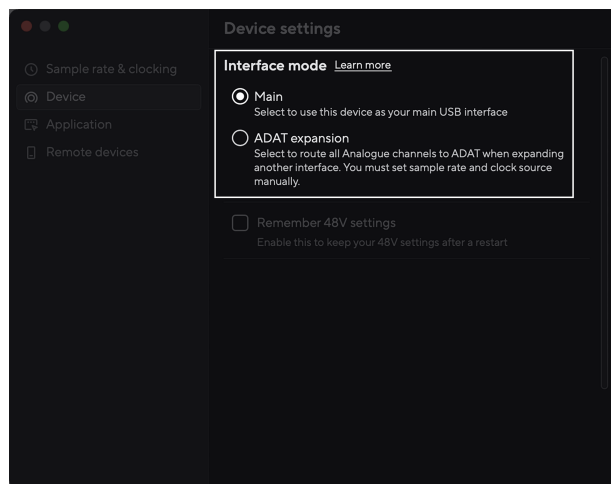
以下の 2 つのインターフェースモードを利用可能です：

- **メイン** - C8X をメインのインターフェースとして使用するモードです。USB ケーブルでコンピューターと接続し、録音ソフトウェアで使用します。
- **ADAT 拡張** - このモードは、C8X の ADAT 出力を別のインターフェースの ADAT 入力に接続する場合に使用します。ADAT 拡張モードを有効にするとルーティングページがロックされ、C8X のアナログ入力が自動的に ADAT 出力にルーティングされます。



重要

ADAT 拡張モードでは、クロックソースやサンプルレートの設定は変更されません。これらの設定は、セットアップ内の他の機器に応じて設定できます。



注記

ADAT 拡張モードでは、ほとんどの出力のルーティングがロックされますが、ヘッドフォン 1 および 2 のソースは選択可能です。メインのインターフェースが ADAT 出力を搭載する場合は、任意のチャンネルを ADAT 経由で C8X に送り、追加のヘッドフォンアンプとして使用可能です。

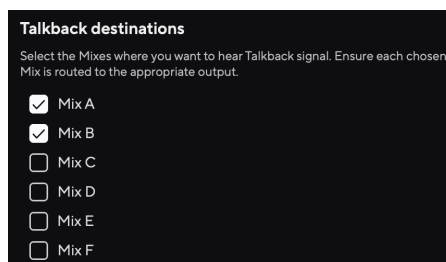
48V 設定を覚えておく

チェックボックスをオンにすると、ISA C8X デバイスの電源をオフにしてオンにした後も 48V の状態を記憶します。

トークバックの送信先

トークバック機能を使用するには、トークバック・マイク信号をどの出力に送信するかを ISA に設定する必要があります。設定方法は以下の通りです。

1. トークバック信号を送信したい **Mix** のチェックボックスを有効にします。



2. ルーティング・タブにて、ソースとして出力に送信したいミックスを割り当てます (例: Mix A と Mix B を Headphones 1 と Headphones 2 に送信)
詳細は、[Focusrite Control 2 のルーティング・タブを使用する \[53\]](#)をご参照ください。

デバイスのリセット

デバイスのリセットを実行すると、ISA を工場出荷時のデフォルト設定に戻すことができます。リセットを実行することで、現在の入力、ミキサー、およびサンプルレートの設定がすべて消去されます。

デバイスをリセットするには：

1. 「デフォルト設定にリセット」ボタンをクリックします。
2. 確認を促すポップアップが表示されます。
3. 「リセット」をクリックします。



注記

デバイスのリセット機能は、プリセットを削除しません。初期設定にリセット後も保存済みのプリセットから以前の設定を復元することができます。

アプリケーション・タブ

Mixer Metering (メーター)

Mixer タブのメーター表示方法を設定します。

- Pre-fade (プリフェーダー) - フェーダーの位置に関わらず常に入力信号レベルを表示します。
- Post-fade (ポストフェーダー) - フェーダー通過後のレベルを表示します。ミックスで実際に聞こえる音をより正確に反映します。

Clip reset timer (クリップ・リセット・タイマー)

メーターのクリップ・インジケーターがリセットされるまでの点灯時間を秒単位で選択できます。

Usage data (使用状況データ)

このチェックボックスを有効にして、使用状況データの共有に同意していただくことが Focusrite Control 2 の改善に役立ちます。詳細は、[個人情報保護方針](#)をご参照ください。

リモートデバイス - Focusrite Control 2 モバイル・アプリのインストール

Focusrite は Focusrite Control 2 のリリースに合わせて、Focusrite Control 2 モバイル・アプリも公開しています。

モバイル・アプリを使用すると、同じ Wi-Fi®ネットワークに接続されているモバイル機器から、コンピューターで実行中の Focusrite Control 2 をコントロールしたり、設定を確認することができます。

リモートデバイス・タブでは、以前に Focusrite Control 2 に接続したスマートフォンやタブレットを管理できます。

Focusrite Control 2 アプリは Android および iOS に対応し、Google Play Store または Apple App Store からダウンロードできます。以下のリンクまたは QR コードからストア・ページにアクセス可能です。

fc2.focusrite.com/mobile/download



注記

Focusrite Control 2 モバイル・アプリは、コンピューターで起動している Focusrite Control 2 をコントロールします。

アプリから ISA を直接コントロールすることはできません。

製品仕様

以下の仕様は、お使いの機器がで使用できるか確認するための参考情報となります。通常は、ほとんどの機器で使用可能なため、これらの情報についての知識がなくても問題ございません。

性能仕様

実測値は、可能な限り AES17 に準拠して測定しています。

対応サンプルレート	44.1 kHz, 48 kHz, 88.2 kHz, 96 kHz, 176.4 kHz, 192 kHz
ビット深度	24 ビット

ISA マイク入力

周波数特性	20Hz-20kHz (±0.4dB)
ダイナミックレンジ (A 特性)	117dB
THD+N	-93dB (0.0023%)
ノイズ EIN (A 特性)	-128dB
最大入力レベル (最小ゲイン)	+16dBu
ゲインレンジ	79dB
入カインピーダンス	800Ω (Low)
	1.4kΩ (ISA 110)
	2.4kΩ (Med)
	7kΩ (High)
ハイパスフィルター (HPF)	75Hz カットオフ周波数、18dB/オクターブ
インサート Send および Return	
信号	バランス
最大出力レベル (Send)	+16dBu
最大入力レベル (Return)	+16dBu

マイク入力

周波数特性	20Hz - 20kHz (±0.1dB)
ダイナミックレンジ (A 特性)	116dB
THD+N	-100dB (0.001%)
ノイズ EIN (A 特性)	-127dB
最大入力レベル (最小ゲイン)	+16dBu
ゲインレンジ	69dB
入カインピーダンス	3.2kΩ

固定レベルライン入力

周波数特性	20Hz-20kHz (±0.05dB)
ダイナミックレンジ (A 特性)	120dB
THD+N	<-105dB (0.00056%)
最大入力レベル (最小ゲイン)	+24dBu
入カインピーダンス	

楽器入力

周波数特性	20Hz - 20kHz (±0.5dB)
ダイナミックレンジ (A 特性)	117dB
THD+N	-89dB (0.0036%)
最大入力レベル (最小ゲイン)	+15dBu
ゲインレンジ	79dB
入力インピーダンス	Low: 400kΩ, High: 1.2MΩ

ライン出力 (バランス)

周波数特性	20Hz-20kHz (±0.02dB)
ダイナミックレンジ (A 特性)	125dB
THD+N	-113dB (0.00023%)
最大出力レベル	+24dBu
出力インピーダンス	200Ω

ヘッドフォン出力

周波数特性	20Hz-20kHz (±0.1dB)
ダイナミックレンジ (A 特性)	114dB @ 33Ω 116dB @ 300Ω 116dB @ 600Ω
THD+N	-102dB @ 33Ω -110dB @ 300Ω -110dB @ 600Ω
最大出力レベル	+8dBu @ 33Ω +11dBu @ 300Ω +11dBu @ 600Ω
最大出力電力	130mW @ 33Ω 28mW @ 300Ω 14mW @ 600Ω
出力インピーダンス	3Ω

重量および寸法

重量	5.6kg (12.13lbs)
高さ	88mm (3.46 インチ / 2U)
幅	482mm (18.98 インチ)
奥行	325mm (12.8 インチ)



ISA C8X の外観および寸法。

付録

プリアンプの入カインピーダンス

マイクプリアンプの音質は、接続されるマイクとプリアンプの種類との組合せによって変わります。この相互作用は主に、マイクの出カレベルや周波数特性に影響します。

レベル

プロフェッショナル向けのマイクは一般的に出カインピーダンスが低く、マイクプリアンプの入カインピーダンスを高く設定することで、より高い出カレベルを得ることができます。

周波数特性

特定のプレゼンスピークや周波数特性を持つマイクは、入カインピーダンスを低く設定することで、さらに音質を改善できる場合があります。逆に、入カインピーダンスを高くすると高域が強調され、平均的な性能のマイクでも空気感や明瞭さが向上します。目的の音色が得られるように、異なるインピーダンス設定を試してみてください。インピーダンス選択をクリエイティブに活用する方法については、マイクの出カインピーダンスとマイクプリアンプの入カインピーダンスの相互作用に関する章を参照してください。



インピーダンス設定 - クイックガイド

通常、各設定では以下のような結果を得られます：

マイクプリアンプのインピーダンスを高く設定した場合：

- 全体的なレベルを向上させる
- マイクの低域と中域の周波数応答を平坦にする傾向があります
- マイクの高周波応答を改善します。

プリアンプの低インピーダンス設定：

- マイクの出カレベルを下げる
- マイクの低域と中域のプレゼンスピークと共振点が強調される傾向があります。

切り替え可能なインピーダンスの詳細

ダイナミック・ムービングコイルおよびコンデンサーマイク

プロフェッショナル用ダイナミックマイクおよびコンデンサーマイクは、通常、1kHz で 150Ω ~ 300Ω の低い出カインピーダンスを持ちます。この特性には、いくつかの利点があります：

- ノイズを拾いにくい
- ケーブルの静電容量による高周波ロールオフを発生させることなく、長いケーブルを駆動できます。

プリアンプの入カインピーダンスが低いと、マイクに負荷がかかり、周波数ごとのインピーダンスの違いが顕著になるため、マイクの出カレベルに影響を与えることがあります。プリアンプの入カインピーダンスをマイクのインピーダンスに合わせる（例：200Ω のマイクに対して 200Ω に設定する）と、出カレベルと S/N 比が約 6dB 低下するため、理想的ではありません。

プリアンプは、マイクへの負荷を抑え S/N 比を向上させるため、一般的にマイクの約 10 倍（1.2kΩ ~ 2kΩ）の入カインピーダンスで設計されています。2kΩ を超える高い入カインピーダンス設定では、出カの周波数による変動が抑えられ、低域から高域までよりバランスの取れた特性が得られます。

リボンマイク

リボンマイクのインピーダンスは、このタイプのマイクがプリアンプのインピーダンスに大きく影響されるため、特別に言及する価値があります。

リボンマイクは約 0.2Ω という非常に低いインピーダンスを持つため、アンプに適した電圧レベルに引き上げるための出力トランスが必要です。トランスの昇圧比 (約 1:30) により、出力インピーダンスは 1kHz で約 200Ω まで引き上げられます。

トランスのインピーダンスは周波数によって変化し、共振点で大きく上昇し、低域や高域では低下します。ダイナミックマイクやコンデンサーマイクと同様に、プリアンプの入力インピーダンスは、リボンマイクの信号レベルや周波数特性、音質に影響を与えます。そのため、リボンマイクに接続するマイクプリアンプは、マイクの少なくとも 5 倍以上の入力インピーダンスを持つプリアンプが推奨されます。

インピーダンスが 30Ω ~ 120Ω のリボンマイクには、入力インピーダンス 600Ω (Low) で問題なく使用できます。 120Ω ~ 200Ω のリボンマイクには、 $1.4k\Omega$ (ISA110) の入力インピーダンス設定の使用が推奨されます。

その他の情報

トラブルシューティング

トラブルシューティングに関するお問い合わせは、Focusrite ヘルプセンター support.focusrite.com にアクセスしてください。

著作権および法定通知

Focusrite は Focusrite Group PLC の登録商標です。ISA は Focusrite Group PLC の商標です。

その他すべての商標および商品名はそれらの個別の所有者の財産です。

2026 © Focusrite Audio Engineering Limited. 無断転用禁止。

ISA C8X クレジット

Novation は、本製品のために尽力してくれた以下の Launchkey MK4 チームメンバーに感謝いたします。

Aaron Marshall、Adam Briffa、Alex Middleton-Dalby、Andy West、Andrew Dutton、Ben Bates、Ben Cochrane、Chris Graves、Dan Stephens、Danny Nugent、Ed Fry、Ed Reason、Ella McClary、Emily Cole、Emma Davies、Ernesto Artaza、Francis Kent、Gagan Mudhar、George、Hannah Budworth、Hannah Williams、Harry Morley、Jack Cole、Jack Lane、Jake Helps、James Hallowell、Jed Fulwell、Jonathan Lee、Josh Wilkinson、Joshua Oates、Julia Laeger、Kiara Holm、Kieran Rigby、Krischa Tobias、Laurence Grantham-Clarke、Leo Garroch、Leo Schofield、Lewis Williams、Marc Smith、Mark Greenwood、Mary Browning、Matt Richardson、Max Bailey、Maz Zeeshan、Mike Richardson、Nigel Whitehead、Olly Stephenson、Oscar Goeffron、Pete Carss、Phil、Robert Blaauboer、Rupert、Ryan Gray、Si Halstead、Stefan Archer、Stefan Elmes、Sophia Sanghera、Sophie Smith、Stratis Sofianos、Wade Dawson、Will Cunningham-Booth、Will Hoult

執筆 : Ed Fry